

日
整

はつらつ!



●目次

はつらつ！健康情報 長寿の秘訣は水にあり	1
「脳が若返る」	2
柔整サロン 日本初、新潟に「手の外科」専門病院	3
輝ける未来への取り組み 〈北信越ブロック〉	8
私の夢 「患者の痛みがわかる柔道整復師となるために」	16
私たちが柔道整復師は全国各地で活躍しています	
●公開健康講座・学術大会	17
長野県 県民公開講座 新潟県 県民公開講座 群馬県 平成24年度第1回生涯学習講習会公開講座を開催 鳥取県 第37回中国学術大会鳥取大会 高知県 四国学術大会高知大会 大分県 第41回九州学術大会大分大会	
●スポーツ・ボランティア	26
山形県 第11回さくらんぼマラソン大会ボランティア活動 群馬県「投の形」競う 千葉県 第3回千葉県接骨師会杯争奪少年柔道大会 第21回日整全国少年柔道大会千葉県大会 第2回日整全国少年形競技会千葉県競技会 東京都 第43回公益社団法人東京都柔道接骨師会柔道大会 愛知県 第1回少年形競技会 三重県 県下少年柔道大会 岐阜県 少年学年別柔道選手権大会少年柔道形競技会 兵庫県 少年柔道大会 大阪府 大阪柔整少年少女柔道大会 広島県 第2回全国少年柔道形競技会中国ブロック予選会	
●防災・救護・介護・その他	33
茨城県 つくば市の竜巻被害救護活動に茨城県柔道接骨師会奉仕団が参加 長野県 県赤十字救護隊・県柔道整復師会赤十字奉仕団合同研修会 石川県 「第60回金沢百万石まつり」救護活動ボランティア 愛知県 鉄人レース、47会員が救護・ケア 京都府 「京都高齢者あんしんサポート企業」サポーター養成研修会 滋賀県 生涯学習研修会 兵庫県 災害支援活動に必要な基礎知識についての講演会 愛媛県 保険・学術研修会、救命講習会 佐賀県 県総合防災訓練に参加	
●第6回日整柔道「形」講習会 総務部	40
日整広報誌の活用を提案	42
《ちょっといい話》	43
●学術シリーズ（第12回）柔道整復師（ほねつぎ）の治療法	44
本の紹介 男は「気配り」だ！	46
アイデア募集 骨継ぎの知恵袋	47
●国際部報告会、学術・生涯学習講習会開催のお知らせ	48
●クノンボール開発者 久野先生が語る	49
●「学術シリーズ」の原稿募集について	50
●表紙解説	47
●平成24年度公益社団法人日本柔道整復師会主催学術大会一覧	48
●日整文芸	51
●編集後記	52

●Web Page 日整ホームページ <http://www.shadan-nissei.or.jp/>

トップページの最新情報、健康情報誌「日整はつらつ！」VOL. 7
または「日整はつらつバックナンバー」から入り当ナンバー広報誌を
クリックしてご覧ください。QRコードもご利用ください。



長寿の秘訣は水にあり

「世界の水・長寿の水—しられざる水の効能」
—からだによい水の飲み方—

（この稿は、第34回北信越学術大会長野大会において開催された県民公開講座の内容を要約したものです。講師は寄生虫博士として有名な東京医科歯科大学名誉教授、藤田紘一郎先生です。）

【講演要旨】

一日に必要な水分摂取の確かな目安

人間の体は約60%が水分によって占められている。一日に約2.5ℓもの水を放出しているため、毎日2.5ℓの水を補充しなければならない。わずか6%の減少によって水分調整の働きを失い脱水症状になり、10%減少すると完全に危機的状況を迎え、20%を超えると死にいたる。

体内での水の役割

覚醒(冷たい水で目覚めスッキリ)、血液の循環促進(血液サラサラで冷えやむくみを予防)、発汗(汗となって体温の上昇を防止)、新陳代謝促進(古い細胞をフレッシュな細胞に)、利尿・排便(老廃物の排出・便通促進にも)、鎮静(脳に集中した血液を全身に流す)、解毒・希釈(有害な物質を体外に押し流す)、入眠(緊張感をほぐして心地よい眠り)

新陳代謝を促す「ちびちび飲み」のすすめ

過重な水の摂取は、脳の中核の麻痺を招き、いくら飲んでも満足しない状態を招く。摂りすぎた水は細胞内に溜まり、ぱんぱんに腫れる。これは「水中毒」という非常に恐ろしい状態である。

この状態が続くと、少し体を動かした程度でも頭痛や嘔吐し、さらに悪化すると昏睡、呼吸困難を起し、最悪の場合には死を招く。ふだんからガブ飲みせず、ちびちびとゆっくりこまめに飲むことが大切。そうすることによって体は水不足にならず、新陳代謝が活発になる。

3分おきにコップ1杯飲むのが理想だが、忙



▲藤田先生

しいときは水を飲む時間が取れない。そこで一日に10回、コップ1杯飲むことを目標にするとよい。夏場や運動したときは2杯くらい。これで1.5から2ℓになる。これを習慣づければ、常に体は適正な水分量が保たれる。

脳梗塞・心筋梗塞に効果的な水分摂取のコツ

40代、50代でも若く元気な人と、年中体の不調を訴えてる人では、どこが違うのか。それはひとえに、体内の水分量の違いなのである。

摂取する水の量が少ないと、新陳代謝の悪化を招き、体内に老廃物を溜める結果を招く。慢性的に水不足の状態になっていると、まず「血液ドロドロ症状」が起り、脳梗塞や心筋梗塞の危険度が一気に増加する。

心筋梗塞や脳梗塞を起こす原因には、血液のドロドロとともに血管の劣化も大きくかかわっているが、体内の水が少ないとコレステロールや中性脂肪の値が大きくなり、血管を詰まらせたり、硬くさせたりする。つまり水分が少ないと血液と血管の状態が低下し、それによって心筋梗塞や脳梗塞が起きやすくなる。

血圧が高いあるいはコレステロール値や中性脂肪の値が高いという心筋梗塞や脳梗塞の予備軍は、なおさら水分摂取が重要になってくる。さらに予防効果をもたらすためには、カルシウムとマグネシウムが入っているミネラルウォーターを飲むことが求められる。

就寝前の1杯は「宝水」

ふだんから血液をサラサラにしておくには「こまめ」に水を飲むことが必要。飲み方の目安としては、起床時にまず1杯、午前中に1杯、午後に2杯、寝る前に1杯となる。

特に忘れてはならないのは、就寝前の1杯である。これを「宝水」というが、宝と呼ぶ理由

は脳梗塞の発症が就寝中や午前中に多いからである。粘度は午前4時から8時くらいまでの間が最も高い。

眠りに入る前の水は脳に集まっていた血液を胃腸に導き、緊張感をほぐすことで眠りやすくなる効果もある。したがって、体を覚醒させないようにややぬるめの水を飲むことが大切。

以上のような講演内容であったが、我々の体にとっていかに水が大切であるか、また硬水と軟水を使い分けることによっていかに健康維持を保てるかということがよく分かり、大変有意義で、なおかつ聴衆を魅了した講演会であった。

(広報員 松坂佳雄)

中国学術大会鳥取大会 「脳が若返る」

浜松医科大学の高田名誉教授が基調講演



▲講演する高田先生

標記の基調講演は、高田明和浜松医科大学名誉教授が「脳が若返る」と題してご講演をされました。高田先生はテレビ、ラジオに多数出演されたり、たくさんの本も出版されています。先生は東海道の大家として名高い「清水次郎長」の直系の子孫でもいらっしゃいます。

先生は、仏教、ブッタの精神世界論にはじまり、70歳代も後半にさしかかるといって年齢であるながら、90分間ホワイトボードに字をしたためながら、熱く、激しくご講演をされました。

今回のご講演では、「心が病んでいたら、なにもきかない」と強くおっしゃられました。

また、「信は道元、功德の母なり」。「信」こ

そが仏道の源とであって、「信」こそが、ありとあらゆる功德を生み出す母である、ということでしょうか？

功德っていうのは、身に備える人徳。立派な人間性。「信じる」というところから、豊かな人間性を身につけることができるということ。信じるか信じないか。仏教の言葉を引き合いに出され、強い精神論をご講演されました。

先生のバイタリティー溢れるご講演で、難しいお話もたくさん出てまいりましたが、聞かせていただいたことで「脳が若返る」ことができたのではないかなと思える大変ありがたいご講演となりました。

高田先生 プロフィール

1935年（昭和10年）、静岡県清水市に生まれる。

1961年慶応大学医学部卒、医師免許授受。

1966年慶応大学医学部大学院修了、医学博士。

1966年米国ニューヨーク州立ロズエル・パーク記念研究所に留学。

1972年ニューヨーク州立大学助教授。

1975年浜松医科大学第二生理学教授。

2001年浜松医科大学を退官、名誉教授に。

2001年4月、(株)精糖工業会顧問。

2003年4月より2011年3月まで、昭和女子大学客員教授。

(ブロック広報部長 宮迫太一)

柔整サロン

日本初、新潟に「手の外科」専門病院

坪川 直人 院長に聞く

聞き手 (社)新潟県接骨師会会長 阿部 松雄

平成24年7月2日新潟市に隣接する北蒲原郡聖籠町に“手の専門病院”が開院した。名称を「新潟手の外科研究所病院」とし、切断した腕や指を縫合する際、1ミリ以下の血管や神経を顕微鏡を見ながらつなぎ合わせる「マイクロサージャリー技術」では、国内トップクラスの技術を持つ。県内外から患者が訪れ、年間約2100件の手術を手掛けている。

医療スタッフとしては「手外科」と整形外科の専門医資格を持つ医師のほか、手のリハビリテーションを担当するハンドセラピストも抱え、時間外や救急外来の患者にも対応する。手の外科に特化した専門病院は日本初という。

病院長を務める坪川直人医学博士は、以前、本会の学術講師を務めていただいたことがあり、その際には、素晴らしい技術に目をうばわれ、先生の用意されたスライドを食い入るように見せていただいたことがあった。このたび、平成24年度の「卒後研修」の講師をお願いしたこともあり、阿部会長が病院をお訪ねしてお話をうかがった。

阿部会長 このたびは、新潟手の外科研究所病院の開院ならびに一般財団法人新潟手の外科研究所の開所、おめでとうございます。

車のアクセスも良く、とてもいい場所ですね。周りの果樹園の緑が茶系の落ち着いた色彩の建物の病院を引き立てていますね。

開院からちょうど1カ月過ぎましたが、大変お忙しいとお聞きしましたが、いかがですか？

坪川先生 7月2日の開院以来、予想を超えた多くの患者さんに来院をいただき、本当に感謝しております。

当初、電話予約の患者さんを含め診察の待ち時間が大幅に延長してしまい、大変なご迷惑をおかけしてしまいました。そのため、現在は外来新患の受付を短縮変更して対応しております。ただ今、初診の方の予約も数カ月

待ちとなってしまいましたので、電話予約を中止しております。

初診の方は直接病院に来ていただき、8時40分から11時の間で受付をしていただいております。

阿部会長 病院の施設や診療のスタイルについてお聞かせください。

坪川先生 敷地面積は約6600平方メートル、3階建てで、延べ床面積は約4100平方メートルです。私たちの診療の守備範囲は原則として整形外科領域の中で手指から手首、肘、肩、鎖骨を含めた上肢全体の障害です。指や手の切断をはじめとした上肢外傷全般も随時受け入れます。

50床のベッドと、3つの手術室を持ち、CT、MRIも備え、整形外科と手外科の専門

医資格を持つ5名の整形外科医と1名の麻酔科専門医を中心にして、ほかではできないような難しい症例も扱える特化した医療を提供します。

加えて、ハンドセラピストをはじめとした専門性の高いメディカルスタッフを加え、診断、手術からリハビリテーションまで、充実した最新の手外科専門医療が提供できると考えております。

また、「新潟手の外科研究所」においては、手外科医としての研修を希望する整形外科・形成外科医の研修施設としての機能を持ち合わせております。

阿部会長 患者さんは、県外からも来ていらっしゃるんですか？

坪川先生 そうですね。今日は、岐阜県から来られた方がおりましたし、新潟県の周辺の各県からはたくさんの方が来られております。

阿部会長 次に新潟手の外科研究所の歴史についてお話し願います。

坪川先生 新潟手の外科研究所は、私の師匠である新潟大学名誉教授の田島達也先生のご

努力で、1985年9月に新潟県の認可した公益財団として発足しました。1986年1月より別組織の病院の一部を借りて手外科の診療を開始しました。それから26年が経過しました。これまで皆様方にご利用いただき、臨床実績は日本国内トップとなるまでに成長いたしました。

しかしより充実した診療活動を行い、皆様のニーズに応え、医療の発展に貢献するためには、独自の病院を持つことが必要と判断するに至りました。

阿部会長 以前、私たちの学術研修会に先生から講演をさせていただいた際に、「病院と設備を共有していた関係で思うような医療行為を行うことに不便を感じている」とおっしゃられましたが？…移転開院の経緯と苦労話をお聞かせください。

坪川先生 たしかに、手術などは別病院の設備を使うため、日によっては順番の調整も必要でしたが、最大の理由は「新公益法人改革」にともない、私たちは、平成24年5月14日に公益財団法人から一般財団法人へ移行されました。これにより別組織が運営する施設では医療を提供できなくなったために移転開院と





なりました。

阿部会長 お忙しい中、先生ご自身の健康法をお聞かせ下さい。

坪川先生 今は、忙しすぎて……。

患者さんと付き合いますと、いろんな方がいらっしゃいますから、いろんな意味で僕は「頭の体操」だと思っています。これが、今の僕の健康法ですかね？

阿部会長 私たちの業界の問題点を少しお聞きください。

柔道整復師の国家試験合格者数が、2002年には1000人なのに、2010年には5000人を超えています。1998年（平成10年）に14校だった養成施設が、2008年（平成20年）には97校となりまして、その結果、養成定員も7000人以上となり、その数は今でも毎年増加傾向にあります。その結果、柔道整復師の過剰が現実のものとなってきました。

2000年（平成12年）には、24,500カ所だった接骨院が平成22年には、全国の施設数は38,000カ所となりました。中には、学校を卒業して何も研修を受けないで開業する者が出はじめております。私は、そんなことはあってはならないことだと思います。また、地域内での「過当競争」が生じて、中にはそのこ

【プロフィール】

坪川 直人（つぼかわ なおと）

勤務先：

一般財団法人 新潟手の外科研究所
〒957-0117 新潟県北蒲原郡聖籠町諏訪山997
TEL：0254-27-0003 FAX：0254-27-0012
E-mail:home @ tenogeka.com

資格：

医師免許 昭和60(1985)年5月
整形外科専門医 平成4(1992)年2月
手の外科専門医 平成19(2007)年1月
学位記 平成11(1999)年2月16日授与
Comparison of the Neurotropic Effect of Motor and Sensory Schwann Cells
During Peripheral Nerve Regeneration.
(末梢神経再生における運動、知覚 Schwann 細胞の神経誘導能力の差についての研究)

略歴：

昭60(1985)年3月 新潟大学医学部卒業
6月 新潟大学医学部整形外科学教室(田島達也教授)入局
昭61(1986)年12月 燕労災病院整形外科
平1(1989)年12月 新潟県立吉田病院整形外科
平2(1990)年10月 新潟大学整形外科手の外科班
平4(1992)年4月 新潟中央病院整形外科
平6(1994)年10月 ニューヨーク州立シラキュース大学留学
平7(1995)年4月 水戸済生会病院整形外科
(助新潟手の外科研究所研究生
平7(1995)年10月 燕労災病院整形外科、手の外科労災センター部長
平9(1997)年10月 (助新潟手の外科研究所研究部長
平19(2007)年4月 (助新潟手の外科研究所所長
平24(2012)年6月 新潟手の外科研究所病院院長併任

学会活動：

日本整形外科学会	会員、専門医
日本手の外科学会	会員、代議員、専門医
日本マイクロサージャリー学会	会員、評議員
日本肘関節学会	会員、評議員

とが原因でトラブルを生じたり、ややもすると不正の温床になっている可能性は否定できません。

もちろん、しっかり研修を積み、その後開業して地域住民の健康維持に貢献することはもちろんのこと、資格を活かしてリハビリやスポーツトレーナーなどで活躍する人も

いるし、今後の地域医療にとって大切な医療人として大いに頑張ってもらいたいと願っております。

坪川先生 ものすごい数で驚きました。一つの考え方ですが、患者さんの数が減るとどうしても、一人の患者さんへの加療が過密になってしまうのではないのでしょうか。それは、本来の医療の概念から外れてしまいます。

また、現在は医療訴訟の問題が大きな問題になっていますので、気を付けていただきたいと思います。

阿部会長 卒後研修制度についてお聞かせ下さい。

このたび、坪川先生におかれましては、お忙しい中、私どもの願いでありました卒後研修の講師をご快諾していただきましたこと、心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

さて、卒後研修でございますが、私たちは、平成17年度から柔道整復師の総意と責任のもと自主的に卒後臨床研修を実施し、法制化に向け関係機関への協議など鋭意努力しております。

先生方医師の皆さんや歯科医師では平成16年から必修化されたそうですので、私たち柔道整復師も必修化すべきだと願っております。

先ほどお話ししましたとおり、柔道整復師の過剰から、資質の低下が叫ばれております。このままでは、先人が築きあげた社会貢献や地域住民の皆様からいただいていたニーズに応えてきたことが、壊れてしまうという危機感を強く持っております。

そんな思いから私は常々、新潟県で卒後研修を開催したいと念願しておりました。その思いが通じましての開催となりました。今回の卒後研修には、24名の若い柔道整復師が参加いたします。先生のお話をよくお聞きして、たくさん知識を習得してほしいと熱望しております。

また、カリキュラムの中には、開業されている柔道整復師の方からも講師として参加していただく予定ですので、先輩の話からは「職業人としての心構え」や「職業への誇り」などを学んでほしいと思っております。

実は、今回の卒後研修の先駆けとしまして、7月14日に私たちの社団法人新潟県接骨師会の設立85周年事業を行いました際に、記念講演を県民公開講座として、公益社団法人柔道整復研修試験財団代表理事の福島統先生より、演題『学校とは知識と技だけを教えるところではない—医療者養成校のこれからの課題—』について講演をしていただきました。とても、ためになる内容で、特に卒後研修の必要性を強く語っていただきました。

事前に今年の卒後研修を受講する会員には参加を促しておきましたので、私の思いが伝わったことと確信をしております。

坪川先生 日本でもようやく2004年度から研修医として働くことが法律で義務付けられることになりました。

卒後臨床研修とは、平たく言えば「研修医」として病院で勤務することです。いわば医者の見習い期間ということです。そしてこの卒後臨床研修の期間中に、自分の進みたい診療科（内科・外科・小児科など）を正式に決めます。

意外かもしれませんが、医学部在学中には自分の専門とする分野を決めてしまわず、すべての分野の医学をひとつおろ学びます。そしてある程度希望を絞り込んで専攻を決め、その分野で研修医として働きながら自分の適正を判断した後、最終的に診療科を決めていきます。

ただし、現状では誰もが医局に入るわけではないので、系統だった研修が受けられないケースもあるようです。

「専門医」についてお話ししますと、わが国では、医師国家試験に合格した医師は、自由に標榜科目を選ぶことができますが、日本専



◀新潟社団から贈った鉢植の前で

門医制評価・認定機構では、加盟している各学会と協調し、5年間以上の専門研修を受け、資格審査ならびに専門医試験に合格して、学会などによって認定された医師を専門医と定義しています。

5年ごとの更新制となっております、この間に定められた講習や学会への参加、論文発表などが義務付けられております。

「医療」は人の暮らしに重要な位置を占めております。これらにかかわる医師の責務はいっそう重要性を増し、社会から医師の専門的知識、高度医療技術の提供に対する要請も格段に高まっています。

この件に関しては、皆さんも同じ医療人として同様ではないでしょうか。社会のニーズに応える必要がありますが、学会などの研修の場をお持ちですか？

阿部会長 1992年に設立された「日本柔道整復接骨医学会」がございます。柔道整復術系学術団体の中で唯一の組織で、柔道整復術に関するさまざまな研究・論文発表などを行っております。本会の会員も学会員として研修活動を行っておりますが、私が思うにまだまだ足りないのが現状かと思っております。今後は学会に積極的な参加を促していきたいと思っております。

阿部会長 最後に私たちの会員に向けてのメッセージをいただけますか。

坪川先生 会員のみなさんからは、今までもご紹介という形で患者さんを送っていただいております。

そんな中で思うことですが、皆さんの施設には、スポーツ選手の学生が多数通院しているようですね。

皆さんの良さは、患者さんに「触れる」ことだと思います。そこで、気を付けていただきたいのは、あまり「いじり過ぎないこと」です。

症状の改善が思わしくないようでしたら、早めにご紹介ください。しっかり診させていただきまして、必要ならば意見を添えて先生方にお返しします。

阿部会長 坪川先生におかれましては、病院長のお仕事のご多忙な中、大変ありがとうございます。また、私たちに力強いエールをいただきましたことを感謝申し上げます。

重ねて、9月から始まります卒後研修においては講師として参加していただけますことはとても力強い限りでございます。

私たちは、今後も技術の研鑽に励みまして、地域の皆さんから信頼される「接（整）骨院」になることをお約束しまして終了とさせていただきます。

輝ける未来への取り組み

《北信越ブロック》

●● 社団法人新潟県接骨師会 ●●

1. 公益社団法人取得に向けての取り組み

平成24年6月20日は、本会にとって忘れられない日となりました。

3月末日に新公益法人移行認定申請書を新潟県庁に提出し、受理され、平成24年6月20日、新潟県公益認定等審議会より新潟県知事に答申されました。

本会は、平成21年度から会長、副会長、総務部長、経理部長で構成された公益法人対策委員会を組織しました。

平成23年度から(公社)日本柔道整復師会などより公益法人関係の情報を収集し、アドバイスを受け、かつ、顧問弁護士、公認会計士の先生に指導を受け、新定款(案)承認に向けての定款作成作業をはじめ、新潟県に提出する移行認定申請書作成作業、会費、入会金等の変更(案)作成作業、下部組織(上・中・下越ブロック8地区)再編(案)の作成作業、役員定数(案)の作成作業、組織再編(案)の作成作業等の協議に入りました。

そして、平成23年8月21日、本会臨時総会を開催し、新定款(案)の承認を得て、平成24年2月26日、本会臨時総会を開催し、下部組織再編(案)、役員定数(案)、組織再編(案)、会費、入会金等改正(案)の承認を得ました。

この4年間、公益法人対策委員会は「公益認定取得要件」を学ぶことからスタートし、そのメリットを深く掘り下げ、阿部会長の「会員の生活を守ることを使命とする」との号令のもと、厳しい業界の現状を打破するためには、公益社団法人化は絶対に必要であるとの結論に達し、公益認定取得の先頭に立って粉骨砕身、改革を進めてきました。

今後の取り組みとしては、公益法人のメリット

は、その名前からくる社会的評価が第一だと思っていますので、平成25年4月1日を新公益法人としてスタートできるよう、事務局体制の再編、諸規程の見直し作成作業のほか、関係各機関および、本会会員に対して公益法人としての本会の活動内容についての周知など積極的に事業を推進していきたいと考えております。

2. 会員の部員化

公益認定取得が具体化する中、本年度より「会員の部員化」も併せてスタートしました。公益法人を取得した際には、「地域社会のために働く団体化」する必要があります。今までの3支部が解体され、8地区が公益事業を実施するにあたり地区ごとの事業を行うこととなります。それには会員一人ひとりが積極的に公益事業に参加してもらう必要があります。具体的な対策として、会員を事業部付の部員として登録してもらい、活動の組織化を計ることとしました。

ボランティア部：各種スポーツ大会や救護活動を行います

学 術 部：学会においての会員発表および公益事業での「健康講話」の講師を務めます

広 報 部：各種事業の取材を行い本会の「新接広報」「接骨院だより」「HP」を運営し、情報を発信します

柔 道 部：北信越ブロック柔道大会の選手として活動します
県下少年柔道大会の運営します

会 員 交 流 部：会員の急増が見込まれる折、年齢・性別・地域の垣根を越えた「仲間づくり」の場として、レクリエーションやサークル活動の企画し運営します

女子部：女性の特性を活かし各種事業をサポートします

3. 新人研修会

現在、新人研修会は保険取扱い研修会に加え、人づくりのための研修会を行っています。養成校を卒業して研修期間が以前より短い中での開業が多く見られるので、業務についてはもちろんのこと、それ以外にも一人の社会人としての素養を身に付けてもらうための取り組みが行われています。

研修会は、基本的には奇数月の第2土曜日に最低3回出席することとし、入会と同時に開設する会員と、勤務する会員がいるので、前者は続けて3回行い、後者はとりあえず1回行い、後は開設会員になったときに残りの2回を行う

形式をとっています。

次に、人間形成の一役になればと、研修会の初めに3分間スピーチをしてもらっています。最初のうちは1分も続かず苦労していた会員も3回目になると話が弾み、時間が足りなくなる場合もあります。

そのほか、温故知新の考えから、柔道整復術の歴史を紹介し、多くの先人たちの苦労の上に現在があることを学んでもらっています。会員の中には、3回の研修会が終わっても「次回も来ていいですか」と言う熱心な会員もいる反面、まだまだ3回では少なく説明不足・情報不足で不安なのではないかと思われる方もおります。少しでもより良い新人保険研修会にしようと試行錯誤を繰り返しています。

(広報員 中條貴之)

● ● 長野県柔道整復師会 ● ●

本会では公益に向けて次のような取り組みを行っています。我々柔道整復師にとって真の輝ける未来を考えるのであれば、共益の部分を充実させてこそ輝ける未来があるのだと考えております。また共益の部分を発展させることが、ひいては公益性に繋がっていく早道だと考えております。それでは長野県の取り組みを公益・共益を交え紹介します。

【学術部の取り組み】

本会の学術部は会員の資質向上を図る活動を精力的に行っています。

特筆すべきは、毎年信州大学医学部のご協力のもと開催している解剖講習会です。学術講演会・基調講座・解剖実習の3部構成で行われます。基礎医学、特に解剖学は普遍であり、すべてのものになるものです。また重点部分を変えて提示していただき、何回受講しても毎回新しい発見を与えてくれます。会員の中でも人気の高い行事で立ち見ができるほどです。

また、毎年開催されている県接骨学会には県下各地区より精選された研究発表・学術講演会が行われ、お互いに柔道整復師として切磋琢磨しスキルアップに励んでおります。

柔道整復術は、いわば伝承医療であり、経験にもとづく医療が連綿として行われてきました。

今や科学技術が発達し、検査、研究が遺伝子レベルにまで及んできている時代です。私たちが根拠に基づく医療というものを受け入れていかなければ将来が見えてこなくなる時代になってくるでしょう。

そんな中、柔道整復学の構築、富山大学寄付講座の進捗に伴う大規模施設調査の臨床のデータ収集作業に本会は会を挙げて参画することとなりました。会員全体の資質向上はきっと我々の柔道整復師業界の将来に一筋の希望の光を灯してくれると信じ、学術部は一丸となって会を盛り立てています。

また我々の資質向上こそが広く国民大衆に受け入れられ、ひいては公益性に繋がるものと確信いたしております。

【介護委員会の取り組み】

当県での介護予防事業は、平成18年、飯田下伊那地区で全国に先駆けて開催された介護予防教室が出発点で、その後、県内に広がってきています。現在では6市町村16会場で1クール12回、1つの教室を対象者15名前後として、会場によっては年間3クールをこなし、機能訓練指導(運動)と諸検査、評価を施しています。

結果をまとめた報告書を提出することによって、事業の有効性を知り、行政との連携を図る

とともに、行政からも事業継続の期待を持たれています。

会員に対しては、年1回の県主催フォローアップ講習会の開催、介護予防教室を開催している地区代表による内容などの紹介、会員アンケート、大学より講師をお招きしてストレッチや運動法の講義や実技、ロコモティブシンドロームの理論と対策、また認知症サポーター養成講座も開催しています。

今後の介護の方向性について、柔道整復師に与えられた機能訓練指導員の資格を行政あるいは関係者に理解と認知していただくことに努めるとともに、会員一人ひとりがその資質を向上させるべく講習会を充実させ、また介護予防事業に対していっそうの関心を高めるようにしたいと思います。

現在行われている各市町村での介護予防教室は、現状を維持し、新たに介護予防教室参加後のフォローアップ教室への参入や、まだ本県では行われていないサテライト方式の事業介入について、専門講師あるいは現在その方式を取り入れられている会員をお招きして検討したいと考えているところです。

ほかにも各地域での転倒予防教室などの開催も予定しています。

【長野県の赤十字活動】

1. 東日本大震災・長野県北部地震・長野県赤十字社へ義援金を贈った。
2. 東日本大震災に係る福島県内救護活動へ4名の会員が参加協力した。

3. 長野県赤十字救護隊および長野県柔道整復師会赤十字奉仕団合同研修会が開催され、21名の会員が参加した。
4. 長野県総合防災訓練が飯山市で開催され、10名の会員が参加した。
5. 日本赤十字社長野県支部合同救護訓練が佐久市の河西赤十字病院で開催され、5名の会員が参加した。
6. 日赤救護物資搬入作業を日本赤十字社長野県支部内村竜徳救護係長指揮のもと4名の会員が参加した。

そのほか、タイの洪水・トルコの震災への義援金活動など多岐にわたり行っております。

また、今後災害時、搬送だけではなく外傷に限ってトリアージ緑タグを看護師と連携して処置できるよう関係者に働きかけ、医療資源としての柔道整復師を役立てて行きたいと考えております。それにはそれ相応の教育を受けてから出動していくことは言うまでもありません。



最後に、公益性を考えるのであればPRの仕方も考えていかなければなりません。会の名称ではなく整骨院を前面に出し、より分かりやすい形でPRしていくことも一つの方法であり、肝要ではないでしょうか。

また、真の未来を考えるのであれば、公益性はもちろんのことではありますが、それ以上に共益の部分を最優先に考えて行くことが輝ける未来に繋がるものと確信しております。

(広報員 松坂佳雄)

●● 富山県柔道整復師会 ●●

本会では、事業部内に TJAT (富山県柔道整復師会アスレチック・トレーナーズ・チーム: Toyama Judo Therapist Association Athletic Trainers Team) があります。



現在、スポーツは老若男女が参加し盛んに行われている中、多くのスポーツによる怪我や障害を抱えた患者様が接骨院に来院されております。また、柔道整復師はスポーツ現場でも、スポーツ障害の予防、コンディショニングや応急手当のできるアスレチックトレーナーとして評

価され、そのニーズが高まっており、今後ますます活動が期待されています。

本会においてもアスレチックトレーナーとしてのニーズに応えるため、平成18年度から「富山県柔道整復師会アスレチック・トレーナーズ・チーム(略称 TJAT)」(以下、TJAT)を発足させ積極的に活動しています。

【目的および運営】

スポーツ医学・科学および柔道整復学・接骨医学の理論や技術を基にアスレチックトレーナ

ーとして、広く県民に対してスポーツ活動の支援を行うとともに健康増進やその維持に関する事業を行い、もって県民の健康づくりやスポーツライフの向上に寄与することを目的とする。

- ① スポーツを通じた健康づくりおよび障害予防に関すること
- ② 各種スポーツ団体の活動支援に関すること
- ③ アスレチックトレーニングの研究に関すること
- ④ 柔整アスレチックトレーナーの研鑽に関すること

現在、TJATの登録会員は57名で、事業部長を中心に担当理事2名、部員4名で運営しております。お問い合わせ、救護およびトレーナー依頼は、本会ホームページまたは事務局が窓口となっております。

本会の主催する事業、富山県柔道整復師会柔道選手権大会、日整全国少年柔道大会富山県大会、日整全国少年柔道形競技大会富山県大会、親善ソフトボール大会、親善ゴルフ大会などはもちろんのこと、県内各地で開催される多くのスポーツイベントで活動しております。

長年の実績が評価され、本年4月22日(日)、砺波市で開催された『第10回チューリップカップINとなみ2012ビーチボール大会』では、となみチューリップフェア開催前に全国から122チーム580名参加のもと、砺波市ビーチボール協会より今年も選手救護支援の要請があり、当会事業部 TJAT 会員4名が救護活動を行いました。

また魚津市で開催された『第32回魚津しんきろうマラソン大会』では、全国各地からのランナーに加え、今年はゲストランナーとして、間寛平さん(よしもと所属)が10^{キロ}の部に出場され



▲▼ TJAT 会員



ました。また地元出身マラソン選手の野尻あずささん(第一生命所属)も特別ゲストとして出場され華を添えました。

本会から TJAT 会員8名がランナーのコンディショニングを中心に、柔整トレーナー活動を行いました。

朝7時前から会場の設営と同時に選手が訪れ各部門のスタートが終了するまでの間は途切れることなく、長蛇の列ができ、延べ150名を超えました。レース前のコンディショニングとして利用された方が半数、レース後のアフターケアとして利用された方が半数で、過去最高の利用者でした。

救護活動2事例を報告いたしました。ほかに本会事業としてカーター記念、黒部名水ロードレース、滑川ほたるいかマラソン、富山あいの風リレーマラソン、全国小学生学年別柔道大会・富山県大会、北信越高等学校柔道大会、富山県高等学校総合体育大会柔道選手権大会など、多数の救護支援に参加しました。

個人やグループで学区住民運動会や町内の各種イベントなどに参加活動している事例もあり、また県内各市町村で介護予防運動や転倒予防運動、健康体操など幅広い分野に進出し好評を



チューリップカップINとなみビーチボール大会

得ております。

学術部では一般参加による学術研修会公開講座を開催し、公益事業の一環としての活動を推進しております。県民への接骨院の知名度アップにたいへん重要なことと位置づけ、いま我々が直面している問題解決に多少でも役立てば幸いと願っております。

日整ならびに各都道府県社団も当然このような活動は行っておられますが、この地味な活動こそが、我々の将来に向けての『輝ける未来への取り組み』…その一歩ではないかと思えます。

(広報員 山元和洋)

●● (社)石川県柔道整復師会 ●●

本会では、柔道整復業務を活かしたボランティア活動が年々盛んに行われるようになってきた。スポーツ大会出場選手へのサポート活動のほか、日本赤十字との協同活動、震災ボランティアにかかわる事業など、さまざまな事業を通して医接連携が行われることにより、柔道整復師がより地域の方々に密着した貢献ができると考え事業を推進している。

《サポート接骨石川活動》

「サポート接骨石川（略称 SSI）」は、本会の会員で構成され、平成13年より活動を開始し、各種スポーツイベントに協賛し、大会参加者に対して傷害の予防やコンディションの管理、救護ならびに競技力向上のためのトレーナー活動、また地域社会への貢献活動を目的として、主に〈下表〉の大会などをサポートしている。

そのほかにもねりんピックやマスターズのような全国大会をはじめ各種競技団体の要請による救護・トレーナー活動、石川県教育委員会への講師派遣などを行っている。

また、参加会員には事前研修会などを開催するほか、日赤基礎講習の受講をするなど自己研鑽に努力している。

イベント名	大会参加人数	サポート状況	会員参加人数	ケア人数
小松鉄人レース	534名	毎年 16年目	44名	260名
猿鬼歩こう走ろう健康大会	1100名	毎年 9年目	17名	217名
野々市じょんからマラソン	1347名	毎年 8年目	20名	105名
能登和倉万葉の里マラソン	7547名	毎年 4年目	34名	483名

(※主たる大会での平成23年度 SSI 活動データ)

大名行列参加者	2,300人	踊り流し参加者	1万人
沿道見物者	40万人	日赤救護ボランティア	100名

(※平成24年6月3日金沢百万石まつり主催者発表)

《日本赤十字奉仕団活動》

平成22年4月25日(日)本会の日本赤十字奉仕団が結成され、赤十字の人道博愛の精神に基づき赤十字と協働しながら活動している。

その活動としては、平成23年3月11日に発生した「東日本大震災」に対し5月22日から5月27日にかけて総勢21名の会員が宮城県東松島市を中心に救護ボランティアの活動を行った。

その真摯な活動が評価され、平成24年3月に発行された『東日本大震災における健康福祉関連支援活動報告書』（石川県健康福祉部発行）にて紹介され報告された。

また昨年度は、一般市民の方々に向けて文化講演会を開催し、金沢医科大学の石垣靖人准教授を迎え、『放射線の正しい知識』と題し、放射能測定機器を使用して身の回りの放射線測定などを体験し、放射線の正しい知識と人体・環境に与える影響、原発事故時の対応などを学んだ。

同日、第2部としてシンポジウムを共催し、東日本大震災のボランティア活動に参加した本会会員が「私たちにできること・伝えたいこと」と題してパネルディスカッションを行い、報告された。

金沢『百万石まつり』では、日赤救護班・各関係団体とともに救護班の一員として参加協力をしている。今年は安全法・雪上・救護・青年・無線・柔道整復師の各奉仕団に学生ボランティア・防災ボランティア・日赤石川県支部職員総勢100名の体制で巡回活動・救護活動・救急車誘導・迷子搜索・見物人警備を各団体と連帯行動を行った。

これらの活動時には日赤のベストとキャップを着用し会員の士気を高めている。

また石川県防災総合訓練や各市で開催される防災訓練にも積極的に協力し、災害時の応急手当などの指導にあっている。

今年6月30日(土)には日赤石川県支部での『防災(災害)ボランティア・シンポジウム』にパネリストとして参加し、活動報告と討議に参加している。また地域ボランティア活動として福祉施設とその周辺の草刈り奉仕作業も長年継続して行われている。

《石川県スポーツトレーナー 連絡協議会への参加》

昨年度より設立された「石川県スポーツトレーナー連絡協議会(略称IST)」(以下IST)への団体参加と役員派遣により石川県スポーツドクター連絡協議会や石川県体育協会、医師会をはじめ各種医療団体とも協力し合い、石川県内のトレーナー認定講習会や大会サポートの活動を行っている。

現在、昨年度より1年間をかけ開催されたIST認定講習会を経て医師4名・PT19名・柔道整復師46名・AT4名・鍼灸26名の計99名が認定された。

認定講習会と認定継続講習会は今年も継続され、北信越インターハイや岐阜国体などに向けて協力体制を強化している。

《公益法人化に伴う事業の 情報発信への取り組み》

本県では公益社団法人移行を進めていくにあたり、次のような取り組みを行っている。

『広報部』では、今年より会員向け広報誌とは別冊で『viva・city～街の元気、みんなの元気を応援します』を作成し、待合室で来院患者さまにも読んでいただけるような健康情報誌を発刊し内容の充実を図っている。

『IT委員会』では、HPの刷新を図るとともに、



県防災訓練



野々市じょんがらマラソン



能登和倉万葉の里マラソン

石川県柔道整復師協同組合HPとアクセスしボリュームのある内容を発信し、一般向け広報誌の「viva・city」を自由にHPで閲覧できるようになった。

今後はSNS(ソーシャルネットワーキングサイト)やスマートフォンなどでのアクセスが容易にできるように取り組んでいる。

『健康柔(やわら)体操普及委員会』では、昨年度にはケーブルテレビに「健康情報」として紹介され、会員が体操の内容を丁寧に実践した。

《終わりに》

公益社団法人移行認定に向け各都道府県の良い活動が多く紹介されているので、参考にさせていただき、よりいっそう組織の結束を図り本会や柔道整復師のPRになるように努めたい。

(広報員 佐藤裕之)

● ● 福井県柔道整復師会 ● ●

本会では、5月の通常総会において公益社団法人移行に必要な定款および諸規程について承認を受け、今後は県に書類を提出するなど必要な手続きをし、来年4月1日には正式に「公益社団法人福井県柔道整復師会」としてスタートできるように、いま準備を進めているところです。

本年度、本会が行う公益活動は以下のとおり。

〈事業部〉少年柔道教室および柔道大会への参加

①少年柔道教室の開催

本会では、柔道を通じて少年・少女たちの心身の健全育成、人格形成、柔道技術の向上を目的とした柔道教室を開催しております。

本会会館の道場では少年の部約60名、一般の部約30名が週4日、汗を流しています。柔道教室を開設して30年を経ましたが、この間、県内外数多くの大会で好成績を収め、全国大会にも出場するなどの成果を挙げています。

また、勝敗だけでなく、厳格な礼儀・躰教育にも重点を置いています。子供たちが大きな声で挨拶をする姿には、わが国が抱える多くの問題など微塵（みじん）も感じられない微笑ましいものです。

②少年柔道大会の主催

毎年7月には、本会の主催で(社)福井県柔道整復師会会長杯少年柔道大会兼日整全国少年柔道大会県予選会を開催しています（=写真）。

サポート参加会員約40名、23チーム約300名の選手が参加する県内の少年柔道大会では最も規模の大きい大会です。

現在は、地元新聞などに試合結果や写真が掲



載され、今後はより多くの県民に大会の周知を図り、地元ケーブルテレビなどで大会の様態を中継してもらう取り組みをしていく予定です。

〈学術部〉一般公開講座の開催に向けて

学術部としては毎年、年度末に県学術研究発表会を開催し、各支部や各公認私的研究会での1年間の研究成果を発表しています。

また年1回、県内外の医療分野などで活躍されている著明な先生を講師としてお招きし、講習会を開催して会員の資質向上・学術研鑽に努めています。

ちなみに、一昨年度は元会員で現明治国際医療大学保険医療学部教授の竹内義享先生をお招きし、柔道整復師にとって必要不可欠な機能解剖や鑑別診断など実践に役立つ貴重な講演をしていただきました。また昨年度は、福井県立病院リハビリテーション室主任・理学療法士の小林義文先生をお招きし、リハビリテーションと理学療法について興味深い講演をしていただきました。本年度は、公益社団法人に向けて、講習会を一般公開して市民の皆様にも多く来場していただく予定です。

このほかにも、各支部や各公認私的研究会において、医師や経験豊富な県内外の会員をお招きして定期的に研修会を開催しています。

今後は、地域住民の健康増進に少しでも貢献できるように、名実ともに公益社団法人にふさわしい組織になるよう、さらなる会員の資質向上に努めていく予定です。

本会ホームページでも、学術に関する内容を充実させ、適宜情報を提供していくことができるよう、いま準備を進めているところです。

なお、柔道整復学構築の柱である日本柔道整復接骨医学会への入会についても、できるだけ多くの会員が入会し、参加するよう本会機関誌「柔整会報」など、あらゆる機会を通じて積極的に促進しています。

いずれにしても、会員自らが日々努力することはもちろんのこと、本会としても、会員全員のレベルアップを図ることができるような環境をつくっていかねばなりません。

それこそ、会員全員が希望の持てる組織（業界）になるように、本テーマである“輝ける未来”をめざして、会を挙げてできる限りの努力をしていかなければならないと思っています。

「ゆく河の流れは絶えずして、しかももとの水にあらず。…」は、鴨長明の「方丈記」の書き出しとしてあまりにも有名です。今年は、作品が誕生してちょうど800年にあたります。長寿社会といえども、人の一生は短くはかないものです。だからこそ、その一瞬を大事にしなければなりません。我々ができることは、患者さんと真摯に向き合い、今できることを誠心誠意尽くすことです。幾多の激流にあっても、脈々と受け継がれた医療伝統である「柔道整復術」が、決して絶えることがあってはなりません。それが我々次世代に受け継ぐ者の責任です。

社会貢献委員会の活動

本会では、昨年度から当委員会の名称を「活路開拓委員会」から「社会貢献委員会」に変更して活動をしています。組織構成は活路開拓委員会時代と同様、各支部から選出された社会貢献委員で構成する「県社会貢献委員会」が窓口となり、各種競技団体からの活動申請を受け付け（申請書は本会ホームページからもダウンロード可）、大会規模や内容などに応じて参加協力会員を派遣し積極的に救護ボランティア活動をしています。

主な活動としては、柔道大会、マラソン大会、バレーボール大会などの救護、SKIJAM 勝山（スキー場）での救護、スポーツ指導者などを対象としたテーピング講習会、自治体や各種団体が主催する健康フェアなどのイベントでの健康相談、老人会や婦人会を対象にした講習会などです。

そのほかにも、県社会貢献委員会では、柔道



▲社会貢献委員による健康相談

整復師を正しく認識していただくために、学術部と協力してチラシ、パンフレット、パネルなどを作成し、各種競技大会だけではなくさまざまな行事で活用し積極的にPRに努めています。

特に本年度は当委員会として、5月12日（土）に福井赤十字病院で開催された「もっとクロス！赤十字フェスティバル」および7月1日（日）に開催された「第2回（社）福井県柔道整復師会会長杯少年柔道大会」で本会のPRに努め好評を得ています。

残念ながら、いまだに柔道整復師という職種や業務内容を正確に認識されていないケースが見受けられますので、今後も地道に本活動を続けながら、メディアを媒介とした対外的なPR活動もしていく予定です。

また、本会では平成16年に「福井県柔道整復師会赤十字救護奉仕団」を結成し、非常災害時に柔道整復師の職能を活かした活動ができる態勢をとっています。そのために、毎年定期的に日赤救急法講習会を開催し、多くの会員が積極的に参加しています。

昨年の東日本大震災では、全国から社団会員やボランティアの人々がいち早く被災地に駆けつけ、救助や復旧作業にあたっていました。本会としてもいつでも対応ができるよう、県主催の防災訓練に参加するなどして体制づくりをしておかなければならないと思っています。

地域支援事業

〈介護予防教室の開催〉

現在、要支援・要介護1の認定を受ける人が右肩上がりが増えてきており、介護給付の増加や、老老介護が大きな社会問題になっています。

このような現状を踏まえ、当会では4年前より地域支援事業の一環として、一般高齢者を対象に介護予防教室を、これまでに勝山市・坂井市・福井市で行っています。

内容は一人ひとりの体力に応じた運動指導、認知予防や口腔ケアなどの講演を行い、一教室あたり90分・全12回の開催です。

私たち柔道整復師が介護・福祉の分野でも活動していくために介護予防教室は絶好の機会なので、今後は県下全域で開催できるように会員に働きかけていきたいと思っています。

（広報員 熊田克典）

私の夢

「患者の痛みがわかる 柔道整復師となるために」



北信越柔整専門学校

夜間部3年 佐々木貴大

私が柔道整復師という仕事に興味を持ったきっかけは、中学生のときに出会った一人の柔道整復師の先生でした。

小学生のころからサッカーをしていましたので、将来サッカー選手として頑張っていたと夢を持っていましたが、サッカーでの怪我がもとでプレーするときも痛みがあり、全力でプレーすることができません。そのため、その痛みを取りたくていろいろな治療院へ通いましたが、その痛みはなかなか治りませんでした。親も心配して、親の知人から紹介された接骨院へはじめて行きました。

そのとき、先生の言った言葉は今でも忘れることはできません。接骨院の先生に痛みが強いところを伝えると、先生は「これはすぐく痛かったね。よく我慢してサッカーしていたね」と言

われたとき、私は泣いてしまいました。なぜなら、今まで周囲の人も私の怪我や痛みを理解してくれた人はいなかったため、先生が言った言葉は私の胸に響き、泣いてしまいました。

先生は、それから一生懸命に、親身になって治療してくださいました。そんな先生を見ていて、憧れを持ち、自分も怪我をした人の気持ちのわかる先生になろう、この仕事を目標そうと心に決めました。接骨院の職業を柔道整復師と知ったのもこのころでした。

私はいま、その先生のような柔道整復師になるために専門学校へ通っています。将来、私はスポーツトレーナーとして活躍したいという夢を持って、勉強に柔道に必死に取り組んでいます。スポーツトレーナーにとって何が一番大切なことなんだろうと私は考えま

した。私なりに思うには、選手とのコミュニケーションが大切であり、接骨院の先生が私の治療をしてくれた時も、私の話をよく聞いてくれ、また、サッカーするときには注意することも話をしてくれました。

それで選手とのコミュニケーションにより、選手も私に頼ってくれたり、信頼感も生まれ、私からの助言も聞いてくれるものと思えました。それが選手のパフォーマンスアップにも繋がるものと思います。

私は、選手にとって必要とされるスポーツトレーナーになるために、専門的な知識を一生懸命に勉強して、選手からも、また患者さんからも信頼される柔道整復師を目指して、頑張っています。

私たち柔道整復師は 全国各地で活躍しています。

健康づくり(公開健康講座)、スポーツボランティア
防災・救護・介護など

公開健康講座・学術大会

長野県

第34回北信越学術大会長野大会

平成24年6月17日(日)午前9時30分から(公社)日本柔道整復師会第34回北信越学術大会長野大会が、郵便貯金会館メルパルク長野にて開催された。

開会式は前日の16日(土)に開催され、会長挨拶で萩原正日整会長は、本学術大会で発表された数々の研究成果は、地域医療の現場で大きく貢献していると述べられ、また本会が最優先課題として取り組んでいる柔道整復学の構築は、富山大学大学院にて柔道整復後療法の有効性を科学的に解明するため調査研究を進めていると述べられた。またWHOやJICAと連携して日本伝統治療である柔道整復術を世界へ発信すべく普及活動などに努めてまいる所存であると結ばれた。

その後、阿部守一長野県知事の祝辞があり、

その中で日ごろ健康長寿日本一の長野県民が皆様の健康の維持増進に多大なる貢献をいただいていることに感謝の言葉を述べられた。また地域医療の確保とともに患者に対するさまざまなきめ細かい対応が求められている中で柔道整復師の皆様が担う役割は今後ますます重要になってくると述べられ、柔道整復師の皆様とともに健康長寿を守っていききたいと述べられた。

引き続き驚沢正一長野市長、関隆教長野県医師会長ほか多数のご来賓から祝辞を賜わり、盛会裏に開会式が終了した。

◇

6月17日学会に先立ち県民公開講座が開催された。今回は寄生虫博士として有名な東京医科歯科大学名誉教授藤田紘一郎先生をお迎えして「世界の水・長寿の水—知られざる水の効能—」からだによい水の飲み方—と題してご講演いただいた。

(講演要旨は本文1ページに別掲)

(広報員 松坂佳雄)



▲会場風景

県民公開講座

7月14日(土)、新潟市のANAクラウンプラザホテルにおいて、創立85周年記念県民公開講座として、公益財団法人柔道整復研修試験財団代表理事、東京慈恵会医科大学教授の福島統先生に県民公開講座「学校とは知識と技だけを教えるところではない」—医療者養成校のこれからの課題—として、講演をお願いしました。

以下、講演の要旨を報告します。

公益社団法人柔道整復研修試験財団の仕事は3つあります。

1. 認定実技審査を行う
2. 国家試験を厚生労働省の指定機関として行っている
3. 自主的な努力としての卒後研修を推奨している

これらは三位一体となっており、これにより柔道整復師の質の保証をしていく役割を担っているのです。柔道整復師の方々が国民に対してより適切な柔道整復師術を行うことができるような環境を作るよう意識しています。

現状を見てみますと、養成校の数が、いわゆる伝統校といわれた14校が現在110校になろうとしています。柔道整復師の養成校の卒業生と医学部の卒業生約8,500人を比べると似たような数になってきております。国家試験の受験者も7,000人を超えています。

医学教育の世界では、大きな変革が始まっています。具体的には、試験では計れない医療人になる者の「適正」を育てる教育が必要だと唱

卒後臨床研修制度

- 医師、歯科医師では法律で必修化された(平成16年から)。
- 看護師では病院に入職すると「新人研修」や「プリセプター制度」のような研修が用意されている。
- 柔道整復師にも、「卒後臨床研修制度」が必要



▲福島 統先生

えられています。

イギリスでは「国民を守るために医療者教育の質を向上させる」としました。その先には国民に対する責任があるという考えが根付いているからです。

では、医療者の「適性」はどこで養われるもののでしょうか？

医療者養成学校というところは、実は責任の対象は学生ではなく、その先にある国民に対する責任を持たねばなりません。それが医療者養成学校が持っている本来の責任ではないでしょうか。これからの医療者養成学校は、知識と技だけを教えるのではなく、医療者としての適性な行動がとれるように人間として、その人を育てているという部分を持っていかなければならないと思います。

それをあえて学生支援と呼びます。

その学生支援は2つのテーマがあり、「人間としての成長」と「職業への誇り」を教える必要があります。

柔道整復師養成学校に求められるものとして、学校は最低限の知識を付けさせて国家試験に受からせればよいのかと言えば、それは違います。それでは国民に対する責任がありません。

一番強調したいのは「職業に対する思いをちゃんと教えてください。それを教えて意志を持ち自分の仕事をやっていく人をつくってください」ということ。これは学校の責任です。

教育の一つの保証として、「認定実技審査制度」があります。これは外部試験官制度であり、医療の分野で卒前に行っているのは柔道整復師養成学校だけであり、誇るべき制度です。この制度を拡充するとともに、広く国民に知ってもらいたいと思います。

そのためには「認定実技審査」がいい加減なものであってはならないと思います。国民に納得、信頼してもらえるように正確に説明ができるようになっていくのが、我々柔道整復研修試験財団の一番大きなテーマです。

そのために今、「認定実技審査制度」を変えています。評定を点数化の形にしたいと思えます。それが「柔道整復師」という仕事を国民に理解してもらい、かつ守っていくためにはとても重要であります。それを支えてくれるのは学校です。学校にはこの制度を理解してしっかりやってもらわねばなりません。

「認知的徒弟制」というのが、非常に高い学習効果があるということが分かってきました。それを支えている学習理論を状況主義といい、状況論では、学習者が獲得するものは環境についての認知的な構造ではなく、環境の中での振る舞い方です。

つまり、仕事を通じて中堅になるにはどうしたらいいか、親方になるにはどうしたらいいかを職場の中で人と接しながら学びます。

「状況論＝正統的周辺参加」とは、人間がある文化的共同体に実践的に参加し、新参者から古参者へと成長していく過程こそが学習です。

新参者は初め小さな役割を与えられ、いわば「周辺の」に参加していますが、次第にそこでの振る舞い方や知識と技を身につけ、古参者や親方として参加をするようになります。

アフリカのヴァイ族の仕立て屋の事例として、「新参者が入ってくるとボタンつけ（初めはやり直しがきくところから始める）から始め、次に袖と胴体の生地を縫い合わせ（少し能力が高いもの）、最後に生地を切る仕事をする。

このような順番で仕事を覚えることによって全体を掌握している仕事のマネージャーとなる」。すなわち、それまでの過程が大切な学習となります。

特に「教える」という行為を経なくとも、実践に参加することによって、そこでの振る舞い方を身につけて中心的メンバーになっていくということは、社会のいたるところで見られます。人を見て自分のものにする。まさに後姿です。その中で学習して行くのです。

私たちはどのように専門家になったのだら

う？

知識は学校で習った!!

基本的な手技（やり方）も学校で習った!!

でも学校では一人ひとり異なる患者さんへの施術法は習っていない。

卒業後、先輩のところで働くことで「師匠から学ぶ」という認知的徒弟制の中で「実学」を安全(患者安全)について学び「人の技見て、我が技直す」能力を身に付ける。先輩が後輩の次にやりそうなミスを予測し行動することで患者の安全が保たれる（ちゃんとした先輩が必要）。

安全な環境でないと学習はできません。

独り立ちをしていく場合に、学校を卒業して何もトレーニングを受けずに開業する——そんな危険なことはまかり通ってはならないことでもあります。私たち医療者は、社会的な責任を背負っているのです。

それを無視した場合には、「柔道整復師」の仕事の価値が下がってしまいます。

それを防ぐためにどうするか？

「卒後臨床研修制度」をどうにか作っていかないと、この仕事（職業）の価値を国が認めなくなってしまう。

医師、歯科医師では平成16年から必修化されました。看護師では病院に入職すると「新人研修」や「プリセプター制度」のような研修が用意されています。柔道整復師にも「卒後研修制度」が必要なのです。

「専門家集団が専門家を守らなければならない」。そこではじめて専門の集団が自立できるのだと思います。

制度として定着させることで、「これをやっていない人はダメなんだ」という雰囲気私たち柔道整復師の世界がつくっていかないと伝統的にならないと思います。柔道整復師がつくってきた社会環境とかニーズに応じてきたという歴史がありますが、それが壊れかけているという危機感を私は強く持っています。

必要とされていた医療をこれからどうするのか？それについて、ぜひ考えたいと思っています。

(広報員 中條貴之)

生涯学習講習会公開講座を開催 柔整超音波画像観察法の基礎と臨床への対応

本会は、7月8日(日)午後1時から県農協ビルで生涯学習講習会を開催した。

公開講座「柔整超音波画像観察法の基礎と臨床への応用」では、講師を日整にお願いし、学術参与の帝京科学大学教授である志保井義忠先生を迎え、一般の方々も含め180人が聴講した。

志保井先生は「柔整超音波では画像解析をスクリーニングし、臨床の症例をレポートの中で発表していくことが重要です」と話された。

出席者はスライドを見ながらスクリーニング、基礎の問題、超音波の表示法、膝部損傷や下腿部の挫傷・指の損傷・足関節捻挫などについて学んだ。

会員による実技講習では新井一会員が「顎関節脱臼の口外整復法」について、また木暮守宏会員は医学博士号取得記念講演として「関節炎における灸の効果とメカニズム」についてそれぞれ講演した。

責任と意識の高揚を

志保井先生は、最初に「プローブはただ『あればよい』ものではなく、与えられた業務の範囲内で、自分の勉強のために、患者さんのために有効に使い、超音波の使用に際しては、責任と意識の高揚を持つことが大切です」と述べられた。以下は講演の要旨。

画像を表示する

柔整・超音波スクリーニング 柔整領域の損傷画像では、損傷部位・位置を明確に画像として確定可能なものと不確定なもの、無効なものを効率よくふるいわけます。実施の際には、抽出画像の見落としや見逃しは起きます。正常な画像の抽出が大事です。

画像表示法には短軸像(横にする)と縦にする長軸像(縦にする)があります。

短軸像で左右・前後・内外側の位置関係がわかります。長軸像では、被験者の頭側(近位側)が、画面に向かって左になるようにします。

画像は白と黒。白は脂肪などの硬いもので、



講演する志保井先生

黒は水または血液です。見方はMRIに近く、目で見えてわかるまでに少し時間がかかります。

脛骨粗面部の横断面スクリーニングでは膝を曲げていくと、前十字靭帯がかるうじて見られることがあります。被験者の水分量・筋肉の質が関係しているのではないかと考えられます。

足関節捻挫の軟部損傷画像抽出では、固定の範囲や損傷部位、出血部位などの確定ができます。

下腿部挫傷は超音波でよくわかります。初検時に負傷部位の大きさ・深さなどを的確に数値化、これにより経過をみることができます。

指骨の損傷は以外に良い結果が出ます。指骨骨折の抽出率は92.2%となりました。

プローブとその操作

プローブは、7.5MHZでリニア(直線上)走査にしぼって使用し、画像の保存はフィルムにしています。

プローブをちょっと置いて画面を見て判断していきます。小指と親指で安定するようにします。

膝関節内側縦断面の場合、1~2mm間隔で後方にプローブを移動してスクリーニングするとよいでしょう。プローブを曲げてしまうと虚像が出てしまいます。

足関節捻挫の軟部損傷画像抽出は、短軸では1方向・長軸で3方向のプローブ操作が必要で、足関節外側の靭帯の場合、靭帯の真上ではなくやや斜めにプローブを置くと画像が抽出できます。一つの空間がないと抽出できないのが超音波の特徴です。

指骨の損傷ではプローブ操作は8方向の観察が必要になります。末節骨は掌側(長軸走査)、

基節骨は背面（長軸走査）スクリーニングで転位を抽出、中節骨は橈側、尺側斜位で転位を抽出して判断します。

新井一会員による 「顎関節脱臼の口外整復法」

「従来行ってきた口内整復法は、口内に術者の指を入れるため、筋肉の緊張と患者の不安感が強くなり、強引な整復法となることが多かった。しかし、口外整復法は患者の緊張も少なく、しかも患者自身の筋力も利用するため苦痛の少ない整復法です」と説明。

◎口外整復法の利点

- 1、恐怖感・疼痛・筋緊張・抵抗感が少ない
- 2、整復操作時に強引な力を要さない(周囲組織のダメージが少ない)
- 3、習慣性になりにくい(再発予防)
- 4、予後が良好・治療日数の短縮

◎整復時のポイント

- 1、不安要素の除去
- 2、早急な整復は行わない
- 3、タイミングを計り、関節突起部位を軽く押圧する（患部が滑るためガーゼ、薄手のゴム手袋を用意し衛生面にも配慮する）

◎対面整復法（本人の独自用語）

患者に椅子に座ってもらい、患者の後頭部に第2～5指を当て両母指先端部は関節突起部に当て直接後方に押す。（患者に口パクをしてもらう）

◎背面整復法（本人の独自用語）

患者の背後に回り、後頭部を術者の腹から胸に当て保持、両母指球を関節突起に当て第3・4指を使い下顎先端部に当てる。関節突起部後方への押圧と下顎先端部を同時に引きながら、患者に口を“パクパク”するよう指示して相手の力を利用しながら整復を行う。整復後1週間は固いものを食べないこと、大きく口を開けないようにすることを指示する。

関節炎における灸の効果とメカニズム 木暮守弘会員

木暮会員は灸療法が関節炎、特に関節リウマチに対してどのような効果があるのかを研究。関節リウマチの発症や炎症、骨破壊のメカニズムについて解説、過去と現在の治療方法の変化を説明した。

ツボによる違いを検証

中国では関節リウマチ患者の関節炎と疼痛抑制、日常生活動作の向上のために、督脈（GV）経路への灸治療が一般的。特に免疫を調整する作用があるといわれている第2・第3腰椎の棘突起間にある命門（GV4）が汎用されてきた。

これまでの研究では関節リウマチのモデル動物であるコラーゲン関節炎（CIA）マウスにおいて、GV4への灸は関節炎の発症及び進展を抑制することがわかっている。

今回の研究では施灸効果のツボによる違いを明らかにすることを目的とし、関節炎の発症と悪化に関係するサイトカインの一つであるIL-6を測定して施灸効果を検証した。

（広報員 永井 毅）

※

第37回 中国学術大会鳥取大会

鳥取県は中国地方の北東に位置し、東は兵庫県、南は岡山県、西は島根県、南西の一部で広島県と隣接し、北には日本海が広がります。日本一の砂丘「鳥取砂丘」があることで有名です。

推計人口は平成24年6月1日現在で、582,618人（男277,860人、女304,758人）

これは47都道府県の中で一番人口が少ない。人口が少ないということは、当然、会員数も少ないということにはなりますが、野坂明典鳥取県柔道整復師会会長のリーダーシップのもとに鳥取県の全会員が力を結集し、平成24年7月1日(日)、午前9時から、とりぎん文化会館（鳥取県尚徳町101-5）において、「公益社団法人日本柔道整復師会第37回中国学術大会鳥取大会」が開催されました。

〈基調講演〉

演題 「脳が若返る」

(概要は本文2ページに掲載)

〈会員発表〉

ハイレベルな研究

1. 井上 志郎会員（広島県）

「コーレス骨折の一症例」

座長 長岡 正樹 副座長 池田 山東志
身内に起こったコーレス骨折。日頃の施術者目線だけでなく、患者さんが身内ということで、患者目線を取り入れた大変貴重な症例報告でした。インフォームドコンセント。言うは易し、行うは難し。施術者再度からすれば、十分と思っている説明が患者さんにとって本当に十分であるのか!? 通常の施術者と患者とのやりとりではわからない患者さんの本音を聞けるという非常に貴重で、なおかつ参考になりました。

2. 景山 真次会員（鳥取県）

「遠位脛腓結合安定性欠如に対するテーピング処置の有効性」

座長 池田 山東志 副座長 増田 剛



会員発表

日々の臨床で遭遇頻度の高い「足関節捻挫」について、ラグビー選手へのアンケートによる実態調査をし、テーピングの有用性を検討する報告でした。

なんとなく有効であると思われるテーピングについて、アンケート、またさまざまなテストによりテーピングの有用性を確認できました。こうしたことの積み重ねが、なんとなくではなく、きちんとしたテーピングの効果を実証できるものであり、地道かもしれないが、景山会員が行った積み重ねが全柔道整復師に求められているのかもしれない。

3. 山本 王兄会員（広島県）

「病態把握とコミュニケーション能力について一症例を基に考える」

座長 増田 剛 副座長 笠井 清久

スノーボードをしている際、他のスノーボーダーと接触転倒し、左肘関節内側剥離骨折の症例をもちいた、施術者と患者さんのコミュニケーションの大切さを綿密に報告しました。

度重なるレントゲン検査、MRI検査、セカンドオピニオンを経て確認できなかった骨折が受傷後1年以上を経過してサードオピニオンのCT検査で骨折が発覚。患者さんとのコミュニケーションがうまくとれたことで、受傷後約2年という期間がかかるも治癒となった貴重な症例報告でした。

医接連携、インフォームドコンセントの大切さ、そしてなによりも患者さんとのコミュニケーションが大切で信頼を生むということ。聴講している会員の先生方も我がこととして聞き入っておりました。

4. 時盛 ゆかり会員（岡山県）

「足部舟状骨骨折の一症例」

座長 笠井 清久 副座長 岡 秀樹

足部舟状骨骨折の単独骨折というのは比較的まれである。そのまれである骨折に対して固定にヒールを用い、内側縦アーチの温存に主眼をおき施術した症例の報告でした。

ヒールを用いることによるウィンドラス機構、トラス機構が機能、もしくは阻害されることの考察に大変興味深い発表でした。なかなか遭遇することが少ない症例であるので、大変貴重な報告であり、また足関節の捻挫との施術方法のリンクも考えられる内容でした。

5. 増田 剛会員（山口県）

「スポーツ時に起こる急性筋性疼痛—ふくらはぎ肉ばなれの治験報告—」

座長 岡 秀樹 副座長 長岡 正樹

「肉ばなれと痙攣」の鑑別。これはスポーツ現場では即座に鑑別することは大変難しいことです。まずはこの鑑別の難しさに触れられ、下腿部の筋損傷の症例を4例出され、また、ご自身で経験された施術法を報告し、それによってご自身で作成された「下腿部急性筋性疼痛の分類」を披露され、解説されました。

「増田の分類」ともいえる非常に貴重な発表であり、今後、この分類がみなさまの指標になるときがくるのではないかと思える発表でした。

今回、5題の会員研究発表があったわけですが、例年以上に非常にハイレベルな研究発表が続きました。こうした研究発表をこの学会だけで終わらせるのではなく、発表者はもちろんのこと、聴講した会員の先生方が加筆していくくらいの気概が必要であると感じました。全会員が思考、試行し、柔道整復術実技編の構築をすることが必要であると感じました。

〈ランチョンセミナー〉

演題「柔道整復師と介護保険」

公益社団法人日本柔道整復師会
保険部介護対策課

三谷 誉 先生（愛知県）

藤田正一 先生（青森県）

平成12年4月から施行された介護保険について、基礎の基礎から今現在の状況。分かっているようで分かっていないこと。知っているようで知らないこと。今現在、この介護保険の状況は各市町村で対応に大きな差が生まれている状況がありますが、これが地方分権によるもので全国すべてを一律にすることは難しいということ。その中で柔道整復師という免許と機能訓練指導員資格のすみ分け、活用法。個々での対応はなかなか知恵と行動力が必要とされますが、各会員がしっかりと吟味、精査し、少しでも自分にとって有益と考えられる場合の指標の礎をご教示いただきました。

この分野での各会員の考えはあるとは思いますが、「指標の礎」をいただいたことは大変参考となりました。

〈一般公開講座〉

軽妙なトークで爆笑を誘う

「鳥取ご当地グルメ図鑑」と題して、鳥取情報文化研究所 植田英樹所長がご講演をされました。

植田所長は99年には人気テレビ番組「TVチャンピオン東京B級グルメ王選手権」に出場し、見事優勝。中国地方初のチャンピオンとなりました。

2001年8月より鳥取県観光プロデューサーに就任。「鳥取県を楽しくすること」を主眼にテレビ、ラジオ、出版物を活用して鳥取県を宣伝。市民グループ「鳥取とうふちくわ総研」の所長にも就任。「世界とうふちくわ会議」の開催。

2009年にはご当地グルメの祭典「鳥取B級グルメフェスタ」の実行委員長をはじめ、「2012近畿・中国・四国B-1グランプリ」の副実行委員長も歴任。

「鳥取愛」に満ち満ちた若手のホープです。

講演は鳥取の人口が少ないことを逆手にとった自虐ネタでスタートし、自虐的でありながら、最大限の「鳥取愛」を感じさせる軽妙なトーク。鳥取の中部、西部に根付く「牛骨ラーメン」、東部に根付く「素ラーメン」、ホルモン焼きそばに、山陰チャンポン。聞いているだけで、食べたくさせてしまうトークが炸裂。

基調講演、会員研究発表、ランチョンセミナー

一と緊張感が張りつめていた会場が、最初は小さい笑いではじまり、最後にはみんなが爆笑してしまうほどの大変楽しいご講演になりました。そして、会場に足を運んだ会員の何人かは確実に帰路にて「鳥取B級グルメ」をいただいたことであろうことは言うまでもありません。

閉会式で会員研究発表をした5人の会員に松岡保日本柔道整復師会副会長より表彰状が手渡されました。そして、次回開催県の近藤尚良島根県柔道整復師会会長から、来年の暫定日時、出雲市での開催が告げられ、すべての予定が終了いたしました。

全国で一番会員数が少ない主管県、(社)鳥取県柔道整復師会ですが、野坂明典会長を先頭にした鳥取県会員の努力の結集により、大変実り多き「大会」になったことをご報告いたします。

〈学会前夜の交流会〉 県境を越え会員相互の親睦はかる

平成24年7月1日(日)の学術大会鳥取大会の前夜、翌日に控える学術大会の成功を祈願し、また会員相互の親睦を深める交流会がたくさんのご来賓の列席のもと盛大に開催されました。

来賓挨拶では石破茂衆議院議員、草瀬宣輝衆議院議員代理・赤澤亮正秘書、藤井喜臣鳥取県副知事、竹内功鳥取市長、常田享詳鳥取県柔道連盟会長から丁重なる祝辞をいただきました。

公益社団法人日本柔道整復師会からは萩原会長、工藤、松岡両副会長をはじめたくさんの理事の先生方が、また各県の会長が多数ご参集していただき、華を添えていただきました。ありがとうございました。

交流会は県境を越えた話し合い、語り合い、そして学術大会とは違う、笑い合いがあり、会員相互の親睦がはかれたのではないかと思います。

(ブロック広報部長 宮迫太一)

高知県

四国学術大会高知大会

公益社団法人日本柔道整復師会第47回四国学術大会高知大会が7月15日(日)、16日(月・祝)と高知市の三翠園ホテルにおいて、四国4県の会員が参加して開催された。今回の学会は、日本柔道整復師会が公益社団法人を取得してから四国では初めての学会であった。

なお、15日には第2回の日整四国少年柔道形競技会と第36回四国ブロック柔道大会が高知県立武道館にて行われ、形の競技演武は香川県の横田隼都、井上広樹選手が優勝、10月に講道館にて開催される大会に出場することになった。



▲形演武

四国ブロック柔道大会には徳島県を除く3県で熱戦が繰り広げられ、高知県が優勝、香川県が準優勝、3位愛媛県となった。

優秀選手には古味直憲(高知県) 多田慎吾(香川県) 鈴木孝年(愛媛県)の各選手が選出された。

15日には前夜祭も開催された。

高知県の尾崎正直知事(代理)や行政、国会議員など関係の多くの来賓も出席して行われ、和やかな雰囲気の中で会員の親睦と情報交換が行われた。

〈特別講演〉2題

17日の学術大会特別講演の2題は、一般公開で行われた。

「投球障害肩」のテーマで信原病院院長・バイオメカニクス研究所所長の信原克哉先生による肩の障害を中心とした講演をいただいた。

講演の中で信原先生は下肢や脊椎、骨盤の障害が肩の障害となっていると、機能解剖と運動



▲信原克哉先生



▲藤田絃一郎先生

分析に基づいた講演であった。

「イキイキ長寿健康法—免疫力を高める生活習慣—」のテーマで講演していただいた東京医科歯科大学名誉教授の藤田絃一郎先生は、インドネシアでの生活経験から、自ら体内で回虫を飼って、アレルギー病の花粉症、アトピー性皮膚炎などの病気は行き過ぎた「キレイ社会」が腸内細菌のバランスを崩して発症しているのではないかと、ユーモアを交えながら会場を笑いの渦にしながらの講演であった。

2人の講演には一般の聴講者も多く参加されていた。

午後から日整の介護保険対策班の藤田正一・細野昇両先生から「柔道整復師と介護保険」～接骨院と相乗効果が望める介護サービス事業～のテーマで介護事業参入の話があった。

その後、会員4名による以下のテーマでの研究発表が行われた。

〈徳島県〉清谷博 上腕骨骨折施術適応と施術限界

〈香川県〉中津誉陽 応急手当の重要性「骨折の一人整復法と固定法」

〈愛媛県〉菊岡裕晃 肩関節の可動域制限を伴う損傷に対する超音波治療の有用性

〈高知県〉浦田憲士郎 Isometric Contraction

(等尺性収縮運動)を用いたいわゆる「寝違え」へのアプローチ

(ブロック広報部長 和家慎一郎)

大分県

第41回九州学術大会大分大会

九州北部豪雨後の7月16日(月・祝)、“レンブラントホテル大分”(大分市)において上記大会が開催された。

県内日田市、竹田市、中津市、周辺各県で被害が出て、各交通網が寸断されている悪条件の中、九州8県より、「九州はひとつ」を合言葉に約500名(学生、一般含む)の参加があった。

本県が昭和47年(1972年)の大分県別府市で第1回大会を開催してから、6度目の主管県となり、今回初めて誕生101年の県都大分市で開催した。また日整が公益社団法人に移行したため、学術大会は日整主催に、総会、柔道大会はブロック会主催に分けた初めての大会となった。

〈特別講演〉ほか

特別講演として、田淵健一先生(田淵整形外科クリニック院長)による『足関節捻挫：足関節ねんどの新しい考え方』、ランチョンセミナーとして、三谷誉・川口貴弘先生(日整保険部介護対策課)による「柔道整復師と介護保険」と、九州ブロック会8会員による研究論文発表が行われた。

また前日(15日)のポスター展示では、島田達生先生(大分大学医学部名誉教授)による『大分が生んだ3人の偉大な医学者』と題し講演していただいた。



▲講演する田淵先生

本大会は、講演、発表などの関係上例年より閉会時間が遅くなり、遠方から来られた会員にはご迷惑をおかけしたが、充実した学術大会になった。

『会員研究発表論文』

① 反復性足関節捻挫予防に用いるテーピングの考察

佐賀県 徳安琢磨

② 運動制限を伴う肩関節疾患の手技療法の有効性

大分県 尾林大生

③ 内反肘を伴うPLRIに類似した動揺性疾患の症例報告

大分県 重石雄大

④ 股関節牽引手技法

福岡県 原口正秀

⑤ シンスプリントに対する相反神経支配筋刺激への治療効果と内側縦アーチの関係について

鹿児島県 有村博信

⑥ 肩関節脱臼整復法の比較検討



▲発表者

福岡県 角家 豊

⑦ 背部痛に対する垂直振動運動の有用性

宮崎県 宮元貴稔

⑧ 10代前半のスポーツによる膝痛へのアプローチと検証

長崎県 今道昭哉

(ブロック広報部長 加藤和信)

スポーツ・ボランティア

山形県

第11回 さくらんぼマラソン大会 ボランティア活動

平成24年6月10日(日)、時おり小雨がぱらつく天候ではあるが、ランナーにとっては走りやすい涼しい気候の下に、第11回 山形県東根市さくらんぼマラソン大会が、陸上自衛隊神町駐屯地を会場に開催されました。

本大会は、参加者数では東北一の規模を誇り、優勝者にはハワイホノルルマラソン大会の出場資格が与えられることもあり、参加者は年々増加、今年は北は北海道から南は沖縄まで12,400名を超えるランナーエントリーがありました。

山形県内から4,600名、県外7,800名、中でも東京都から1,200名の参加があり、過去最高のエントリー数となりました。

本会は今年で5回目のボランティア参加、会



▲川内選手

員20名でレース前のテーピングとレース後のケア活動を行いました。

スタート前に約400名、ゴール後のケアを受けるランナー約200名が我々のブースを訪れています。毎年サービスを受けるランナーが増え続け、ブース前には長蛇の列でござたがえします。

レース後、ある女性ランナーがブースに来られ「お陰さまで年齢別で優勝できました～」、賞品のさくらんぼを手に甲高い喜びの声。ボラ

ンティア一同大拍手。

また「テーピングありがとうございました。来年もまた来ます」と手を振って帰られた人。

感謝の言葉に疲れ切った心身が癒されます。今年も多くの人に柔道整復師が日々行っている業務の一分野をPRできたと自負しています。

主催者側からも本大会には必要不可欠なサービスと高い評価を得ております。

さて、レースの方はハーフ20キロの部で今回の特別招待選手は今年話題になった埼玉県庁の公務員ランナー「川内優輝」さん。オリンピックを目指すランナーはこんなにも速いものかとその走りっぷりには驚きました。もちろんトップ、新記録でゴールです。本人は「そんなに疲れませんでしたよ」と余裕の弁でした。

(広報員 武田吉和)

群馬県

「投の形」競う

6月21日(木)午後8時から、県接骨師会多目的ホールの柔整館群接道場で、公益社団法人日本柔道整復師会(以下、日整)第2回全国少年柔道形競技会の出場選手選考会を開催した。

日整全国少年柔道形競技会は、昨年から日整全国少年柔道大会と並行して開催。成年の日整全国柔道大会と同じブロックから各1組が出場し「投の形(手技・腰技・足技のみ)」を競う。本年は、北関東ブロック(栃木・群馬)から群馬県の代表が出場する。



▲全国大会代表選手

息の合った演技を

県内の柔道教室・道場で、普段から行っている受身・打ち込み・乱取りなどの稽古のほかに「投の形」の練習を積んできた小学4年生から6年生の少年少女8組が参加。

大藤忠昭会長は、開会挨拶の中で「『投の形』を修練することで、礼法、対裁き、技等の基本をしっかりと身につけることができます。『形』は、『取・受』が共に相手を思いやるのが大切です。二人が息を合わせて一心同体とならなければ良い演技はできません」と述べた。

代表に渡邊・野本組

取・受を一体と見て評価し、投げの形(手技・腰技・足技)計9本の「形」の技、及び「礼法」、「全体の流れ」を各10点満点で採点。

試合とは異なる緊張感が漂う静かな道場で、一組ごとに審査が行われた。審査の結果、北澤武廣会員の道場で稽古に励む渡邊涼斗・野本龍也組が代表に選ばれた。

群馬県選手選考会 5選手を選抜

群馬県接骨師会は6月17日(日)、前橋市民体育館柔道場で、第21回文部科学大臣杯争奪・公益社団法人日本柔道整復師会(以下、日整)全国少年柔道大会の県選手選考会を開催した。

日整全国少年柔道大会は、毎年10月、体育の日に東京の講道館で開催される。

試合は午前9時30分から開始。県内の小学4年生から6年生、総勢65人が参加。各学年の上位に入った選手の中から、日整全国少年柔道大会への出場者5人が選ばれた。



試合後に行われた全国大会出場選手選考の結果、

4年生 武井佑磨選手

5年生 丸山和隼選手 深澤昂太選手

6年生 見友朝勝選手 河村龍成選手

が群馬県代表に選抜された。

(広報員 永井 毅)

千葉県

第3回千葉県接骨師会杯争奪 少年柔道大会

第21回日整全国少年柔道大会千葉県大会 第2回日整全国少年形競技会千葉県競技会

柔道を通じ子供たちの心身の育成に貢献

平成24年6月24日(日)、本年度も昨年に引き続き多くの観客を収容できる船橋市総合体育館(船橋アリーナ)において開催された。県内46道場より約400名の少年少女が参加し、選手家族・一般市民ギャラリーも多数観戦し盛大に開催された。

開会式においてご来賓に祝辞をいただいた後、岡本会長は「本大会は柔道を通じて少年少女の心と体の健全な育成のお手伝いと、このような機会を通じて地域社会への貢献を目的としております。開催にあたりご来賓各位・関係各団体のご理解とご協力に感謝申し上げます。選手の方々はそれぞれが素晴らしい指導者のもとで、厳しい稽古に耐え鍛えぬいてきた日ごろの成果を十分に発揮し、悔いのないよう頑張ってください」と挨拶された。

息詰まる団体戦での熱戦

開会式の後、男女それぞれ団体戦での熱戦が展開された。

[団体戦結果]

〈男子の部〉

・優勝：大多喜町少年柔道クラブ

・準優勝：中山柔道会

・第3位：大原町少年柔道教室
明心館関本道場

〈女子の部〉

・優勝：紅柔道少年団

・準優勝：下志津柔道クラブ

・第3位：大多喜町少年柔道クラブ
吉田道場市川柔道クラブ

おとな顔負けの華麗なる形競技

投の形競技会では13団体の代表が小学生とは思えぬ華麗なる投の形を披露、日頃の厳しい稽古の成果を競い合い、第2回日整全国少年形競技会の代表が決定した。

・優勝 (取) 関口翔太 (受) 近藤亮介
(市川柔道教室)

・準優勝 (取) 金久保太一 (受) 水上舞音
(流山市柔道会)

・第3位 (取) 加瀬龍弥 (受) 加瀬瑛人
(旭市柔道協会)

両者一步も引かぬ個人戦での熱戦

続いて第21回日整全国少年柔道大会の代表を決める個人戦に移り、日頃の厳しい稽古に耐え培った技と、強い心をぶつけ合った素晴らしい熱戦が展開され、各学年の代表が決定した。

〈4年生〉

・優勝 関本健太 (明心館関本道場)

〈5年生〉

・優勝 柳下将真 (了徳寺柔道クラブ)

・準優勝 田嶋海佳 (下志津柔道クラブ)

〈6年生〉

・優勝 浅野史恩 (大原町少年柔道教室)

・準優勝 関 寛太 (大原町少年柔道教室)

* 4年生優勝選手及び5年生・6年生の優勝・準優勝選手は、日整全国少年柔道大会に千葉県代表選手として出場、形競技の優勝チームは、日整全国少年柔道形競技会南関東ブロック代表選手として出場します。



全国大会代表選手

応急救護ブースで外傷などに対処 接骨院相談コーナーで 一般市民の健康相談に対応

会場には AED 及び応急処置材料などを備えた救護ブースを設け、学術部員が救護班として待機、外傷などに対処する万全の体制を整えた。

また接骨院相談コーナーを設け、一般市民を対象にスポーツ外傷・スポーツ障害その他健康相談にも対応し、多くの相談者が訪れ大変好評で「地域での柔道整復師」をアピールすることができた。

ロンドンオリンピックが開催されている今、オリンピックを含め国際大会での活躍と成果が、いまだ低迷している我が国柔道会の底上げにも貢献できる大会として、さらに発展させていきたいと考えた。

(広報員 渡辺 勇)

東京都

第43回公益社団法人 東京都柔道接骨師会柔道大会

平成24年7月8日(日)講道館大道場において「第43回東京都柔道接骨師会柔道大会」が開催された。昨年の蒸し暑さとは打って変わり、涼しささえ感じられる中、400名近くの選手を迎え激しい熱戦が繰り広げられた。

道場対抗少年試合では、去年優勝の春日柔道クラブが素晴らしチームワークを発揮し、昨年の雪辱に燃える臥牛館道場を破り大会2連覇を飾った。この結果、上位2チームは10月8日(月・体育の日)に開催される日整全国柔道大会への



▲東京都柔道接骨師会柔道大会

進出を決めた。

中学校対抗試合では、江東区立東陽中学校が優勝を果たした。

また「投の形」による「第2回少年柔道形競技会」が行われ、出場3チームの中から優勝を果たした東村山柔道クラブが、「第2回日整全国少年柔道形競技会」への出場権を獲得した。形競技会終了後には、難波秀樹会員(大田支部)、松田康宏会員(世田谷支部)による「柔の形」が披露され、多くの喝采を浴びた。

柔整学校対抗試合

午後の部では柔整学校対抗試合が行われ、決勝戦は昨年と同様に代表戦にもつれ込む緊迫した試合内容となったが、了徳寺学園医療専門学校が日本柔道整復専門学校を破り優勝。

女子トーナメント60kg級は秋元江美選手(東京柔整)が優勝。無差別級は太田琴乃選手(東京柔整)が3年連続の優勝を果たした。

注目の東京都知事杯争奪戦では、津久井佑隆会員(葛飾支部)が多彩な技で見事大会初優勝の栄冠に輝いた。

本大会に先立ち、6月24日(日)都柔接会館3階において、下地秀和会員(渋谷支部)に審判講習会の講師をお願いし、徹底した審判のレベルの向上を図るためにご指導をいただいた。

こうしたご協力もあり、大会実行委員長で事業部長の辰野正和理事のもと、無事大会を終えることができたことは、これもひとえに選手・監督をはじめ関係者の皆様、応援にいらした観客の皆様、大会運営にご協力いただいた役員・審判員・係員・柔道部会・都柔接事務局、その他多くの方々のご助力のお蔭と深く感謝申し上げます。

(広報員 新井 宏)

愛知県

第1回少年形競技会

6月17日(日)、本会主催の第1回少年形競技会が愛知県武道館で開催された。県下の他のすべての柔道大会を含め初めての大会となった。

昨年からはじめた日整全国少年形競技会の予選会としての開催でもある。昨年は東海東部ブ



▲審判員の前で…

ロックは静岡県から出場することが決まっており、今年が愛知から初めての参加となるので、今回第1回競技会として企画し開催する運びとなった。

まずはどこの地域から、あるいはどのような組織から何組に出場してもらうかが、柔道部で検討された。

本会は10支部に分かれているので、各支部から均等に1組ずつの計10組を選出しようとの案が出され、支部柔道担当者に選出を依頼した。

当初は各支部から1組を選出してもらうのは難しいだろうと予想された。しかし支部担当者の努力と支部会員の意識の高さにより、会員が開設する道場や指導する教室などから選抜して、すべての支部から1組ずつの選手が見事に選ばれた。中には予選会を実施して優秀者を選抜した支部もあった。

当日は、本会柔道大会と県下柔整専門学校柔道大会も併催され、両大会の合間の12時20分から観衆が静かに見守る厳かな雰囲気の中、競技会は行われた。

県柔道連盟3名と本会会員2名の合わせて5名の審査員が厳しい視線を送るなか、緊張しながらも各チームとも大人顔負けのみごとな投の形を披露し、この競技会に向けて練習を重ねてきた選手たちの頑張りや指導者の熱意がうかがわれた。

第1回の競技会是这样して成功裏に終了した。選手の頑張りや予想以上にレベルの高い競技会となったことが成功の大きな要因であろう。

来年以降も継続して開催してい

くことが決定しているが、選出方法・運営方法をさらに検討してより充実した大会となるよう、柔道部は意気込んでいる。

また東海ブロック柔道大会でも形競技会を開催して、東海東部(愛知・静岡)と東海西部(岐阜・三重)各々の日整代表を決定することも検討されている。

(広報員 長谷川貴一)

三重県

県下少年柔道大会

平成24年7月1日(日)三重県営伊勢サンアリーナにおいて、本会主催の『第18回柔整師杯県下少年柔道大会』が開催されました。県内46の道場や教室から360名が参加し小学4年から6年の学年、男女別6部門トーナメント方式で優勝を目指しました(=写真)。

今年も開会式前の時間を利用して、昨年10月の日整全国少年柔道大会で三重県チームが3位に入賞した模様を大画面スクリーンに映し紹介しました。

橋本誠柔道部長の開会の辞に始まり、伊藤和夫会長挨拶、来賓の田村憲久衆議院議員、三ツ矢憲生衆議院議員より子供たちに激励のお言葉をいただき、磯部昂佑選手(さざれ道場)・並木玲阿選手(三重武道館)による選手宣誓の後、試合は開始されました。

体重無差別の試合で激戦続きのためか、本会の救護所では11名のケガ人にすばやい応急処置を行い、選手保護者から感謝の言葉を受けていました。



すべての試合終了後、(取)堤晴香選手、(受)浦上茜選手(ともに三重武道館)による投の形の演武が披露されました。

各部門の上位4名は8月19日(日)に同じく三重県で開催される『柔整師杯第9回東海少年柔道選手権大会』(個人戦)へ出場します。

また10月8日(祝・月)講道館で開催される『第21回日整全国少年柔道大会』(団体戦)には、

〈4年生〉新井総馬君(久居柔道教室)

〈5年生〉山口隆乃君(粥見道場)

山本亮我君(久居柔道教室)

〈6年生〉弓矢健奨君(石樽道場)

大西陸斗君(松阪市武道館)

の5名が三重県チームとして出場します。

また『第2回日整全国少年柔道形競技会』には、堤晴香選手・浦上茜選手が東海西部チームとして出場します。

(広報員 伊藤昌夫)

岐阜県

少年学年別柔道選手権大会 少年柔道形競技会

平成24年7月8日(日)午前9時30分から大垣市武道館柔道場において第22回柔整師杯・岐阜県少年学年別柔道選手権大会ならびに第2回岐阜県少年柔道形競技会が開催されました。

鹿野副会長による開会の辞に始まり、橋本会長より「君たちが柔道の稽古をするためにいろいろとサポートしてくれているお父さん、お母さんそして指導者の方々に感謝しつつ、日ごろの練習の成果を十分に発揮できるよう頑張ってください」と挨拶があり、引き続き来賓から激励のお言葉を頂戴しました。

まず初めに、昨年から開催されている「形」競技会が行われ、今年度は各地区から9組のペアが出場し、緊張した雰囲気の中、選手たちはみごとな演武を披露してくれました。

大会は4会場に分れ、男女とも各学年白熱したトーナメント戦が繰り広げられ、一本勝ちを収め誇らしげな表情を見せる選手もいれば、対照的に悔し涙を浮かべる選手などさまざまな表情を見ることができました。

なお5、6年男子の部優勝者に加え、全国大

会出場者決定戦を制した選手が10月8日(月・祝)講道館で開催されます「日整全国少年柔道大会」に出場します。選手の皆さんには大会での活躍を期待しております。



▲全国大会出場選手

また試合会場では救護ブースが設けられ、本会会員が待機し、たびたび訪れる負傷者に的確な応急処置を行っていました。

今回は、9月にイタリアのポルデノーネで開催されます「第4回世界柔道形選手権大会」に日本代表として出場する(取)中山智史四段(西濃地区)、(受)林聖治四段(岐阜北地区)による「固の形」が披露されました。2人の息の合ったキビキビとした動きに会場内も一瞬にして水を打ったかのように静まり返り、中山選手の膝行の音、林選手の畳を打つ音だけが響いていました。小学生をはじめ、観覧席の父兄の方々、大会関係者も含めその雰囲気呑み込まれ食い入るように演武を見入っていました。

終了後、橋本会長からお二人に記念品と世界選手権に向けた会員有志からの激励金が贈られた。さらなる稽古を積まれ、必ずや世界大会でも優秀な成績を収められることを祈念します。

また柔道教室では、今年の本県が国体開催県であり、本会会員と4名のぎふ清流国体候補選手に参加していただき、ちびっ子選手たちに寝技・立ち技の乱取を行い、教室終了後も熱心に指導をあおいでいる子供の姿もありました。

閉会式では形競技ならびに各学年の入賞者に対して表彰状と記念品が贈られ、田口副会長の閉会の辞により大会は盛会裏に終了となりました。

(広報員 大橋好一)

兵庫県

少年柔道大会

平成24年7月8日(日)、『第28回兵庫県柔道整復師会少年柔道大会』が、グリーンアリーナ神戸にて開催されました(=写真)。

大会は、県内各地の柔道教室や道場から、男女小学生約630名130チームが、高学年72チーム・低学年58チームに分かれ、トーナメント形式で頂点を目指し競い合いました。

開会式後、試合に先立ち参加児童による「投の形」の演武が披露されました。

その後の試合では、監督や仲間の声援を受け、熱戦が繰り広げられました。

高学年の部決勝は、第13回大会以来2度目の優勝を狙う「野々池柔道サークル」と大会6連覇の経験がある「社柔道少年団」の対戦となり、「社柔道少年団」が大会史上初の7度目の優勝を勝ち獲りました。

低学年の部決勝は、昨年同様「二見少年柔道クラブ」と「広畑柔道教室」が対戦、「広畑柔道教室」が昨年の雪辱を果たし大会初優勝を飾りました。

その後、日整全国少年柔道大会に出場する兵庫県代表選抜メンバーを決める個人戦が行われ、

- 〈4年生〉山尾直大君(将祥柔道館)
- 〈5年生〉石田皇志郎君(社柔道少年団)
井上直弥君(龍野若竹会)
- 〈6年生〉加納怜治君(龍野若竹会)
小西 貴大君(野々池柔道サークル)

の5選手が、兵庫県代表選抜チームとして講道館で行われる日整全国少年柔道大会の代表に選ばれました。
(広報員 相江勝弘)



大阪府

大阪柔整少年少女柔道大会

「小学生の部」低学年団体戦・

高学年学年別個人戦

「中学生の部」女子学年別個人戦

めざすはオンリーワン!

6月24日(日)午前9時から大阪柔整会館において、公益社団法人大阪府柔道整復師会の主催、大阪府・大阪府教育委員会、大阪市・大阪市教育委員会、大阪府柔道連盟、大阪府柔道道場連盟の後援で、「第24回大阪府知事杯争奪 平成24年度大阪柔整少年少女柔道大会」が盛大に開催されました。

田中義昭柔道部長の開会宣言で始まり、主催者を代表して安田剛大会会長代行の田中義明柔道部長が「公益社団法人大阪府柔道整復師会は、青少年の健全育成を目的として地域に根ざした各種柔道大会を開催しております。またこの大会に284名の少年少女の選手たちが参加されています。選手の皆さんは悔いの残らないよう精一杯戦ってください」と選手たちへ激励の挨拶を行いました。

試合に先立ち伊藤大輔選手(弥刀少年柔道クラブ)が「日頃の練習の成果を精一杯発揮して戦うことを誓います!」と力強い選手宣誓を行った後、試合が開始されました。

試合早々から監督やコーチの激励、道場関係者やチームメイト、見守る保護者たちの声援を背に受け、勇猛果敢に戦いました。

団体戦・個人戦で試合が進行するにつれ、単に力技で相手を倒すのではなく、自分が得意とする技にもっていく“考える柔道”が見られ、特

に女子柔道の試合における意気込みに目を見張るものがありました。

なお、玉山晋治(岸和田支部)監督率いる、沖本将大・景山清春・斉藤

立・千根野有我・上釜増之助の5選手は大阪府の代表として、10月8日(月・祝)講道館で開催される「第21回 日整全国



▲熱戦

少年柔道大会」に出場します。

大将の上釜増之助選手は『まずは初戦突破して、目指すは優勝です！』と大会に向けて抱負を語ってくれました。

公益社団法人大阪府柔道整復師会は、これからも大阪府民の皆様の健康増進事業に、積極的に取り組んでまいります。

(広報員 山田 豊)

中国ブロック

第2回全国少年柔道形競技会 中国ブロック予選会

昨年度は中国ブロックでは少年柔道形競技会の予選会は行われなかったが、今年度は、鳥取



▲形代表選手

県代表と岡山県代表が競い合いました。

柔道の試合とは打って違って静寂な闘い。しかし、静寂中にも気迫みなぎる少年戦士たち。受けと取りの絶妙な呼吸。間合い。

これぞ、柔道の「間」

甲乙つけがたい闘いが繰り広げられましたが、結果は…岡山県代表の勝利。

〈岡山県〉

監督 水島浩二

選手 (受) 水島龍海選手

(取) 柏原 仁選手

が中国ブロック代表に選出されました。

全国大会では中国ブロックの予選会以上の鍛錬を重ね、全国優勝を目指してがんばってください!!!

(ブロック広報部長 宮迫太一)

防災・救護・介護

茨城県

つくば市の竜巻被害救護活動に 茨城県柔道接骨師会奉仕団が参加

去る5月6日に、つくば市北条で発生した竜巻は、雷雲とともに発生し、建物の倒壊など近年稀にみる大規模な被害を出した。

つくば市は、北条地区の筑波交流センターに竜巻被害現地対策本部を設置しその対策にあたる一方、負傷者の手当などをするための臨時救護所も併せて設けられた。

これと併せて、日本赤十字社茨城県支部においても救援活動に入り、本会の奉仕団にも出動

要請があったことから、この指示に従い、竜巻発生から1週間後の5月12日、13日ならびに2週間後の5月19日、20日、合わせて4日間、救



▲竜巻救護班

護活動に参加した。

主な活動内容は、災害復旧のためのボランティア活動をしている方々が、作業中負傷した場合の応急手当などに対応するためのもので、メンバーについては、看護師・救急法指導員および接骨師などであり、これら各セクションから2名が待機して行われたものです。

この活動期間中に来所された方は、瓦礫の撤去作業中に力を入れたことにより筋挫傷を起こした方や、足底部に釘が刺さり傷を負った方などが主な方々でした。

活動の合い間を見て、被害を受けた街の状況を見ましたが、竜巻の爪痕が生々しく残る中、田んぼの中で泥まみれになり手探りで瓦礫を取り除く作業をしている人の姿や、公園の芝生に飛散した小さなガラス片を一つひとつ拾うボランティア活動をしている人の姿を目にして、自発的な意思によりボランティア活動に参加されている方々の尊さと、自然の猛威を肌で感じる事ができたことなど貴重な体験をしました。

このたびの活動に協力してくれた奉仕団の団員は、竜巻の被災者でありながら参加してくれた鮭川秋雄副委員長をはじめ、急な出動要請にも快く引き受け、接骨院を休診にして参加してくれた木村相徳委員ならびに猪野淳・中川文夫・高田敬各団員の方々であり、お陰様で本奉仕団の責務を果たすことができました。

(広報員 荒井健吉)

長野県

県赤十字救護隊・ 県柔道整復師会赤十字奉仕団 合同研修会

去る平成24年6月24日(日)日本赤十字社長野県支部において長野県赤十字救護隊・長野県柔道整復師会赤十字奉仕団による合同研修会が開催された。全体で46名の参加者があり、本会から21名参加した。

〈目的〉

災害救護活動は、日本赤十字社の基本的な業務であり、その活動は多くの住民から期待されているところである。長野県支部においても、突然襲ってくる災害に対して、医療救護班の編



▲赤十字奉仕団参加者

成、救護物資の備蓄および防災ボランティアの登録などを行っている。

今回、災害時における被災者の救護活動を行うボランティアとして登録されている長野県赤十字救護隊と長野県柔道整復師会赤十字奉仕団が合同に研修を行うことにより、奉仕団員の意識の高揚を図るとともに、相互の連携を深めることを目的に研修を実施するものである。

まず最初に、最近の日本赤十字社の活動学び、その後基本的な三角巾の使い方から担架の組み立て、傷病者の救護の仕方など救護演習を行い、午後には初の試みとしてグループワークが行われ「赤十字防災ボランティア・リーダーとしての理想像」と題し、個々の意見をグループとしてまとめ発表した。その結果、

★リーダーシップの要素として

①状況把握力

活動環境(安全確保)、他団体の動き、活動目標、他団体 UR とのコミュニケーションなど

②内的な力

人柄、経験、実績、先見性、問題解決力など

③外的な力

権限、規律ルール、リーダーとしての役割など

④コミュニケーションスキル

説得力や傾聴の態度、動機付ける話し合いなど

⑤情報

活動に役立つ情報、活用のタイミング、情報ルートの拡大など

以上であった。

先入観をなくせ

また先入観を持つと活動の制限や遅れ、また間違った判断をしかねないなどの話があり、先

入観をいかになくして考えることが大事かという講話があり、次のような質問が出された。

皆さんで考えてみてください。

「兄さんとボクとは同じ日に生まれた。うん、双生児の兄弟、姿形だって、鏡に写したように2人はよく似ていた。でも、気が付いた時には、ボクたちはもうはっきりと差別されていた。力の強い兄さん、不器用なボク…。ボール投げを教えられたのも、字を教わったのも、絵をかかせてもらったのも、兄さんだけだった。

10歳の時に事件が起きた。兄さんが機械に挟まれ死んでしまった。僕たちはたった二人っきりの兄弟だったから、兄さんがいなくなれば、今度はボクがパパやママの手助けをしてあげなければいけない。ボクは一生懸命頑張った。今ではもう兄さんと同じくらい、何でもできるようになった。兄さんと同じくらい力も強くなったし、器用に仕事ができるようになった。ボクの名前は〇〇。兄さんの名前は〇〇という名前だった」—阿刀田高「最後のメッセージ『兄弟』」より—

兄弟の名前は何かといいますか、考えてみてください。ちなみに正解者は46名中、私を含め3名だけでした。

(広報員 松坂佳雄)

石川県

「第60回金沢百万石まつり」 救護活動ボランティア

平成24年6月2日(土)石川県柔道整復師会日本赤十字奉仕団として、『百万石まつり』救護活動ボランティアに参加した。

金沢市内で行われる『百万石まつり』では、日赤救護班と共同で活動し、各関係団体とともに救護班の一員として参加協力をした。今年は安全法・雪上・救護・青年・無線・柔道整復師の各奉仕団に学生ボランティア・防災ボランティア・日赤石川県支部職員総勢100名の体制で巡回活動・救護活動・救急車誘導・迷子捜索・見物人警備を各団体と連帯行動を行った。

本会からは会員14名が参加し、正午から3箇所ある各集合場所に集まり、星稜大の学生や他

のボランティアの人たちとグループを組んで救護と巡回とに別れ活動をした。百万石行列が終わって踊り流しが始まり、活動は午後9時を廻るまで続いた。

昨年から参加しているこのボランティア活動は、日本赤十字社石川県支部が中心となって行われているもので、本会だけの活動とは違い他団体との交流が深まりとても有意義な一日であった。



▲救護活動ボランティア

『防災（災害）ボランティア・ シンポジウム』

平成24年6月30日(土)石川県地場産業振興センター本館大ホールにて日本赤十字社石川県支部主催の『防災（災害）ボランティア・シンポジウム』が開催されました。本会からはパネリストとして堂本義邦総務部長・中田健市学術部長が参加しました。

日本赤十字社石川県支部の式部事務局長の挨拶で始まり、基調講演では「東日本大震災における社会福祉協議会の活動」と題して、後藤真一郎全国ボランティア・市民活動振興センター副部長が講演され、続いて金沢星稜大学人間科学部の池田幸應教授がコーディネーターとなり、



▲災害ボランティア・シンポジウム

パネリストとして石川県社会福祉協議会・石川県県民ボランティアセンター・柔道整復師会赤十字奉仕団・かほく市赤十字奉仕団・防災ボランティア・リーダーの方々が紹介され、それぞれの活動と報告がなされた。

会場には約200名の方々が参加され、防災(災害)について真剣に検討されていた。

(広報員 佐藤裕之)

愛知県

鉄人レース、47会員が救護・ケア

6月24日(日)、知多半島西岸の常滑市でトライアスロン大会「アイアンマン70.3セントレア常滑ジャパン」が開催され、本会事業部長や支部会員ら合わせて47名が選手の救護・ケアにあたった。

中部国際空港セントレアを臨む景観豊かな常滑市とその周辺地域で行われたのは今年で3回目。もともとは空港開港5周年記念イベントとして始まり、当時の大会会長から本会へ医療・救護スタッフの派遣依頼があつて始まった事業である。

競技は国内外の一流選手や一般者が参加して、スイム1.9km、バイク90.1km、ラン21.1km(合計113.1km=70.3マイル)の順で行われる。

今年は、ラスベガスで開催されるアイアンマン70.3シリーズに加え、特別にハワイ島コナで開催される同シリーズの世界選手権の出場権を得ることができるということもあり、世界30か国以上から選手が集結するレベルの高い大会になった。

救護にあたる会員は、5月上旬から定期的に打合せを行い、ベッドの準備や役割分担を確認してきた。6月16日には常滑市役所に20余名が集まり、ストレッチなどの実務研修も行って万全の態勢で臨んだ。

午前7時30分、薄曇りの絶好のコンディションのもと、1600名の鉄人たちが一斉にスタート(本会から3名の会員も参加した)。

午前10時、会員は常滑市役所前駐車場に集合後、メイン会場のフィニッシュ地点「りんくう海浜緑地北広場」に設営されたテントでベッド20台を設置してゴールする選手を待った。



▲ゴールした選手をケアする会員

真っ先に訪れたのは優勝者で、テント前で記者会見を行ったあとケアを受けてもらった。来訪者は年々増え、1昨年は280名、昨年は379名、今年は約390名がケアを受けた。一時期、待合いの椅子に50名が並ぶほどの盛況となり、受付終了後も多数の来訪者があつた。

公益社団法人としての事業の充実を図るために、参加した会員は高い意識をもって懸命な活動を行った。

(広報員 長谷川貴一)

京都府

「京都高齢者あんしんサポート企業」 サポーター養成研修会

平成24年4月1日(日)14時から、京都府柔道整復師会館5階大会議室において、「京都高齢者あんしんサポート企業」サポーター養成研修会を開催しました。

これは平成23年6月に府や市町村、各種団体が連携する「京都地域包括ケア推進機構」が設立され、その事業の一つとして「高齢者あんしんサポート企業」の登録が始まっており、その登録にあたっての研修会を京都府柔道整復師会福祉部が主催したものです。

(「京都高齢者あんしんサポート企業」とは…高齢者が安心して暮らし続けられる地域づくりのため、高齢者の方へのお声掛けや買い物支援のほか、必要に応じた相談窓口の紹介、地域における高齢者向けの情報発信拠点などを行う、高齢者にやさしいお店・企業のこと) 安本彰吾福祉部員の司会で始まり、大西辰博

会長挨拶のあと、京都地域包括ケア推進機構の吉田英行氏より、研修会のオリエンテーションが行われました。



京都地域包括ケア推進機構 吉田氏

「京都高齢者あんしんサポート企業」とは、高齢者が安心して暮らし続けられる地域づくりを実現するために、

- ① 地域における情報発信拠点として高齢者向け情報の発信を担う企業
- ② 高齢者の孤立や不安の解消に向け声掛けや見守りを行う企業
- ③ 認知症の方やその家族のサポートに取り組む高齢者にやさしい企業

のことで、研修を受講し終了された方にはサポーターグッズ（ステッカー・スタンド・ピンバッチ・リストバンド）が配布される旨の説明が行われました。

続いて、認知症の人と家族の会の荒牧敦子京都支部長より「認知症サポーター養成講座」と題して、認知症とはどういうものか？症状は？

認知症の人と接するときの心構えは？介護家族の悩みごと、ご自身のご家族の介護体験談を元に、実際に体験された人でないとわからない貴重な苦労話を交えながらわかりやすくお話していただきました。

認知症の人と家族の会は1980年に結成された公益社団法人で、全国46都道府県に支部があり、会員数は1万人を超えます。主な活動は全国集会、研修会、会報誌の発行、電話相談、国・自治体などへの提言や要望などです。家族、本人、専門職の方など、どなたでもご入会いただけます。

次に、株式会社チェンジ・アップの荒尾千春氏より、「高齢者の特性を学ぶ・傾聴接遇研修」と題して、実際にケーススタディ・グループワークを行い、高齢者の特性を理解し、傾聴接遇スキルを高め、高齢者に心地よく安心感を与える接し方を学びました。

そして、高齢者役、企業役、評価役の3人1組になりロールプレイングをすることによりこの講演での話に実体感が湧いてきました。

最後に吉田氏より「地域包括ケアについて」お話をいただき、研修会は終了となりました。

この研修会を通して、日本が超高齢化社会に進んでいる中で、身近な高齢者だけでなくそのご家族に対しての理解をして、日々の業務活動を通じて見守りなどを実施することで、高齢者が安心して暮らし続けることができる地域づくりに協力していきたいと強く思いました。

（広報員 中村英弘）

— その他 —

滋賀県

生涯学習研修会

平成24年5月20日(日)午前10時から、大津市ふれあいプラザにおいて厚生部、学術部共催による生涯学習研修会が開催されました。

今回の演題は「テーピング講習会～ゼロテープ除圧式療法～」除圧式テーピング療法研究会代表の千頭一彦先生を講師に迎え講演いただきました。当日は会員外の柔道整復師の方、また

養成校の学生も含め多数の参加者があり、会場は盛会となりました。

除圧による疼痛軽減を目的としたテーピング療法、筋肉など軟部組織の硬結した部位に吸盤カップを用い、皮膚を吸い上げ「除圧」し、それを特殊なテープで維持し、局所の代謝を促進し疼痛の軽減を図るという治療法で、講演では総論から各論、またモデルを用いて実際の症例を示しながら進められました。

症状を見極め、適切な除圧ポイントを選択することが大変重要であり、また貼付する際の肢



▲モデルを使った実技指導

位にも注意しなければ十分な除圧効果が得られないとのことでした。除圧式療法という大変興味深い内容で、参加者は熱心に聴講されており、終盤では活発な質疑応答が交わされ、その関心の高さがうかがえました。

この研修会では、大変多くのことを吸収させていただき、今後の施療に大いに役立つ貴重な講演内容でした。

(広報員 岡田博之)

兵庫県

災害支援活動に必要な基礎知識についての講演会

平成24年6月10日、本会会館 5F 多目的ホールにおいて、公益社団法人兵庫県看護協会災害看護担当の朝熊裕美先生をお招きして、標記講演会が開催されました。

当日は、本会会員45名の出席があり、「災害発生時におけるメカニズムならびに支援活動に必要な基礎知識および他職種との連携の重要性について」お話しいただきました。



▲講演する朝熊先生

災害支援活動に必要な基礎知識を、実際の災害支援ナースとして東日本大震災で活動された内容を例に挙げながら、講演いただきました。

災害時における被災者の心理状態や具体的な行動手順、被災者に心のケアについて、そして行政・他業種の組織との連携・協働の重要性についてのお話があり、今後の災害活動においての団体また我々柔道整復師としての活動の連携において大変意義のある内容でした。

救護活動を行うために、「まずは何から始めなければならないのか。こういった手順を踏んで現地に行かなければならないのか。現地での活動方法はどうしなくていけないのか。柔道整復師として、どこまでの活動を行うのか」など、いろいろと救護支援活動に必要なことを教えていただきました。

日ごろから、知識の習得や技術の研鑽をしっかりとやらなければと痛感した講演会でした。

(広報員 相江勝弘)

愛媛県

保険・学術研修会、救命講習会

平成24年6月10日(日)13時から保険研修会・学術研修会ならびに普通救命講習会が、愛媛県男女共同参画センター3階研修室において、会員65名が出席し開催された。

保険研修会は「柔道整復師の施術の療養費の適正化への取組について」と題し、公益社団法人日本柔道整復師会の萩原正和保険部長を講師に迎え講演をしていただいた。

講演では柔道整復術公認の歴史、委任払い、健康保険取扱い、自賠責保険取扱い、税務経営実態調査報告、社会保障審議会・医療保険審議会などの現状についてパワーポイントを用いて説明され、会員からの質問にも分かりやすく説明していただいた。

学術研修会では、「肩関節の可動域制限を伴う損傷に対する超音波治療の有効性」と題して本会の菊岡裕晃会員が発表した。

普通救命講習会では松山市消防局中央消防署消防副士長、川渕真志氏ほか2名の方が講師とし指導をしていただいた。



▲救命講習会

初めに人工呼吸法について、手当の順序、観察と確認の仕方、方法など実技を行い、続いてAEDの取扱いについて指導を受け質疑応答も行われ、救命法が習得でき、ほんとうに役立つ講習会であった。

(広報員 井関澄男)

佐賀県

県総合防災訓練に参加

今年佐賀県で行われた防災訓練は、「佐賀県地域防災計画」の内容が反映された初めての訓練で、メイン会場を中心とした集約型から同規模の4つの会場での分散型訓練に変更され、地域特性に応じた災害対応訓練が参加機関83機関、参加人数2,677名で実施されました。

当会では、2つの会場に参加しました。一つは津波被害を想定した避難訓練会場となった芦刈会場に隈本圭吾ボランティア委員長をリーダーとする12名と、土砂災害を想定した避難会場



▲総合防災訓練の参加者

の三瀬会場には平野弘道会員をリーダーとする4名です。

この訓練は、「災害発生後2日目から10日目で初動期に手当が受けられずにいる被害者の骨折・脱臼・捻挫・挫傷など外傷への応急手当や避難所生活の運動不足や生活機能低下のための機能回復訓練を行う」という想定で実施されたものです。

まずはじめはリーダーの隈本先生の掛け声により会場にいる方全員で生活機能低下予防のストレッチ体操を行うため、会場に来ている方々に会場全体に広がってもらい行いました。

次に私、岡本康二は芦刈会場に参加し訓練本番です。田島和明会員と保健婦さんの3人で1チームとなり6チームで30分間に避難されている方々の中から施術を必要とされているケガ人役15人を探し出し、問診・検査・施術を行いました。

普段の治療室とは違い、気持ちばかりが先走り、上っ滑りしている感じで30分間はあっという間に過ぎてしまいました。もっと時間があれば周りの方々に症状や処置方法の説明をしたいところでした。改善点、小さなミスはありましたが、訓練は無事終わることができました。

東日本大震災支援義援金募金

想像を絶する被害をもたらした東日本大震災からすでに1年が経過、現在でも多くの方々が仮設住宅をはじめとして避難生活を余儀なくされています。被災された方々に謹んでお見舞いとお悔やみを申し上げます。

今回の震災では、多くの犠牲と悲しみの中で多くの人々が東北地方を支援してきました。1年が経過したとはいえ、対策が想定よりはるかに遅延している感は否めず、復興は歩み始めたばかりです。

通常総会前に開催した理事会で、震災に対する援助について協議を行い、総会の折に富永敬二会長が義援金を預託する決定を採決した旨の説明をされ、会員から拍手喝采の承認を得られました。

5月13日(日)開催の中学柔道錬

成大会の折、昨年に引き続き受付に募金箱を設置し呼びかけを行い、微力ながらも被災地の方々の力となって活かされることを祈りながら、集まった金額と我々県柔整会からの補填分との合計を復興支援の義援金として佐賀新聞社の佐賀善意銀行へ預託しました。

(広報員 小嶋利博)

※



▲義援金を渡す富永会長（右）

第6回日整柔道「形」講習会

総務部

公益社団法人日本柔道整復師会主催による第6回日整柔道「形」講習会が8月4日(土)、5日(日)、2日間の日程で講道館において開催された。全国都道府県柔道整復師会より推薦された40名の会員が参加した。

講師に講道館指導部次長の佐藤正八段と梅津勝子八段、講道館指導部から向井幹博七段、高橋広美四段をお迎えし、今回は、「投の形」、「柔の形」、「古式の形」の講習会を行った。

1日目は、8月4日(土)午後1時から開講式が行われ、工藤鉄男副会長の開会の辞で始まり、萩原正会長の挨拶に続き、司会の橋本昇理事より講師の紹介が行われた。

講習会は佐藤先生、向井先生が「投の形」を、梅津先生、高橋先生が「柔の形」を担当された。「投の形」では、三井住友生命の女子選手による模範演技が披露された。

2日目は、午前10時から開始され、昼食をはさみ午後2時まで行われた。

佐藤先生、向井先生には「古式の形」を、梅津先生、高橋先生には前日に続き「柔の形」を指導いただいた。

閉講式は、岡本和久総務部長の開会の辞で始まり、萩原会長が、連日の猛暑の中すばらしいご指導をいただいた講師の先生方にお礼の言葉を述べられ、続いて佐藤正先生、梅津勝子先生から講評をいただいた。

佐藤先生は、「形」の練習は継続して行うことに意義があり、技の緩急をつけることによりさらに上達が可能となる、と話された。





梅津先生は、「形」を演じるときは相手を堂々と見て一緒に動作をする。そして正確に、力強く、美しく演じられるよう心掛けて練習をしていただきたい、と話された。また、受講者の熱心な心に打たれ、楽しんで指導することができた、ことも話された。

次に萩原会長から、受講者の代表として千葉県のカ島義美会員へ修了証が、佐藤先生から千葉県の村山繁晴会員へ認定証が授与された。

10月8日(月・祝)に開催される、日整全国柔道大会の「形」演武者の選考があり、4組に決定した。

「投の形」

(取) 神奈川県 室田 次朗 六段
 (受) 神奈川県 徳留 義見 六段
 (取) 岡山県 三村 真輝 三段
 (受) 岡山県 藤原 靖真 五段

「柔の形」

(取) 愛知県 青木 保宏 五段
 (受) 愛知県 榎本 好根 六段

「古式の形」

(取) 愛知県 春日井和幸 五段
 (受) 愛知県 中村 太 六段

岡本和久総務部長が閉会の辞を述べ、2日間にわたった第6回日整柔道「形」講習会は無事成功裏に終了した。





▲「形」講習会参加者

日整広報誌の活用を提案

広 報 部

昨年9月より公益社団法人日本柔道整復師会として内閣府に認定されて、より公益性を追求する日整へとスタートして1年がたちました。

広報部では萩原正日整会長のご指示、会員の皆様のご協力の下、より良い広報誌とすべく、広報部一致団結して新しい公益性の高い広報誌づくりの編集作業に努めさせていただいております。

昨年9月号より皆さまのお手元にお届けした広報誌は、公益目的の“日整はつらつ!”、そして共益目的は今までどおり“日整広報”として2分冊の発行となっています。

施術所の待合室など患者様が読める場所に、“日整はつらつ!”を置いておられる会員の方もいらっしゃると思います。まだ実施されていない会員の方々も、“日整はつらつ!”を患者さんの目の触れる場所においていただくようご提案させていただきます。

さらに会員の方が良い記事と思われたものをコピーされて、待合室に置いておくことも一考されてはいかがでしょうか。

会員皆様の業務の一助を担う“日整はつらつ!”となれば、編集作業する広報部一同の冥利に尽きます。

《ちょっといい話》

群馬県

カルガモ

鈴木 行正

我が家の池には、6年前から軽鴨の番が毎年4月中旬になると飛来し、2ヵ月ほど逗留する。

今年は久し振りに外敵（蛇・カラス・猫など）に襲われることなく、雛11羽が清夏早朝午前6時に誕生した。

最初はよちよち歩きであったが、3時間も経過すると足の運びや泳ぎに力がついてくる。前回もそうであったが、4時間ほどで親子ともども、どこかへ旅立ってしまった。まったく不思議である。

（ちなみに、平成19年は11羽誕生。20、21、22、23年は外敵に遭い、誕生なし）



◆原稿締切日は奇数月20日です◆

〈投稿される会員へお願い〉

最近、パソコンで作成された原稿が多くなっています。しかしながら、せっかく入力されたデータでも、印刷された用紙だけでは、もう一度入力しなければならないのが現状です。

ワードまたは一太郎などで作成された原稿の場合は、そのファイルをメールで添付送付されるか、または原稿にフロッピーやCDを添付してお送りください。

作業効率向上、さらには編集会議の経費削減にもつながりますので、ぜひご協力ください。なおフロッピーやCDは返却しませんのでご了承ください。

★編集会議の結果、投稿の内容により未掲載となる場合もありますのでご了承ください。また「投稿」の場合、必ず日整広報原稿と記入または入力してください。

★投稿文は各都道府県事務所を通して応募ください。

★原稿・投稿者名にはふりがなをお願いします。

宛先：“日整広報”〈kouhou@shadan-nissei.or.jp〉

日整はつらつ！発行日と原稿締切

※原稿の締切厳守をお願いします。（広報部）

号数	8号	9号	10号	11号	12号	13号
原稿締切	9月20日	11月20日	平成25年 1月20日	3月20日	5月20日	7月20日
発行	11月20日	平成25年 1月20日	3月20日	5月20日	7月20日	9月20日

柔道整復師(ほねつぎ)の治療法

—湿布 固定について—

奈良県 西尾 勝彦

柔道整復師の治療範囲は、骨折(骨が折れた)、脱臼(関節がはずれた)、捻挫(関節をひねった)、打撲(うった)、挫傷(肉離れ)と外力によって受傷されたケガを保存治療する(手術をせず)のが、保険で取扱うことができる治療範囲です。

昔は骨が折れたらほねつぎ、いまは整形へ。X線検査、骨に異常がなかったと言って来院されるケースが見られるようになってきました。患者様が来院されたとき、骨折、脱臼、捻挫などの判断は治療室に入ってこられたときから始まります。

次のような手順で判断します。

1. 問診：主訴をよく聞く
2. 視診：健側(正常な方)と比較
3. 触診：軽くさわってみる
4. 運動性：どこまで関節が可動するか
5. 計測：下腿の周径など
6. X線検査：整形外科で診断を受ける

患者様にケガの状態、治療方針、治療見込みをよく説明してから治療する。

■症例1：80歳 男性 右下腿骨骨折(腓骨下端骨折)

【原因】夜、アパートの段の所でつまずき転倒。

【症状】足関節内外側より足根部まで腫脹、疼痛、前方引き出し少しゆるい。



【経過】受傷後 15日経過して(そのうちに治ると思い湿布をして様子を見ていたが、腫れも痛みもよくなるので)来院。日が経っているので判断がつきにくい。

強度の捻挫と思われていたが、腓骨下端、足根部に圧痛、内出血が足全体にあるので骨折を疑い、X線検査を依頼する。

その日は、湿布(酢酸鉛、通常1~2%の水溶液を作り、綿花をガーゼで包みその液に浸し、下腿、足部に当てる)、その上に油紙をして4裂包帯で固定する。





3日目 X線検査の結果、腓骨下端骨折と診断。「当分の間、固定してください」と指示される。

湿布の上より副木（25×4 cm）、綿花で凹凸をつけ外側腓骨に添わせて包帯で固定。その後は腫脹などの状況により包帯を締め直し固定を続ける。

29日目 内外側腫脹大分吸収、疼痛軽減。

44日目 副木除去。

【後療法】リハビリは毎日通院、関節を20日間固定すると動かなくなるので、2日目より軽く自他動運動する。温罨法（湿式ホットパック）を20分することによって、血行促進、靭帯、関節包などの機能回復、鎮静作用と効果がある。

手技：患部にサロメチール、シッカ

ロールをつけて、軽擦法（マッサージ）、手掌で末梢から中枢へ軽くさする。圧迫法、手掌で持続的に圧迫する。

■症例2：60歳 女性 左下腿骨骨折（腓骨下端骨折）

【原因】家をつまずく。

【経過】受傷100日後に来院。下腿上部より趾まで腫脹相当あり、歩行時疼痛。持参X線像、骨折端隔離して硬化、偽関節（骨折したところが見つからない）となっている。湿布、副木固定。

〈来院〉

34日目 副木除去。

45日目 X線検査、受診時と変化なし。

その後、1年間治療するも無理されると少し腫脹、疼痛の繰り返しでした。

当初できなかった正座は10分間可能まで回復。



骨折、脱臼、捻挫などの治療は、初期固定が大変重要だと思いました。外傷を早期治癒にもっていくために、後療（リハビリ）は毎日通院し、手技、湿布、副木固定、包帯の締め直しをすることが早期治癒に効果があると思います。

〈訂正〉学術シリーズ（第11回）「腰痛について—腹部を支える筋肉と椎間板について—」の「日常生活におけるさまざまな姿勢での第3腰椎椎間板にかかる荷重の比較変化」の図における各姿勢の内圧を『kg』で表示しましたが、直立の姿勢を100として、『%』での表示に訂正させていただきます。
(学術部)

男は「気配り」だ！

学術部員 嶋谷 清

会員の皆様方には常に学術研鑽ならびに技術の向上に努めておられることと思いますが、そのほかにも大切なことは、「いかに気配り、心配りができるか」ということも大切なことではないでしょうか。

日々の施術に際して、患者様への対応や施術所内の雰囲気など、多方面にわたり細心の気配り、心配りをされていることと思います。

しかし、一步外に出れば気配り、心配りを受ける立場に逆転することもあり、さまざまな状況での気配りがあるものと思います。

はたして自分はどこまで気配りをして、人の話を聞いたり、話したり、また行動を起こしているだろうかと考えさせられます。

我々柔道整復師は地域医療の一翼を担う医療人として、患者様はいうまでもなく、地域住民皆様方より信頼される者でなければならないと思っております。

今回紹介する図書は、これまでのような学術的図書ではなく、さらなる資質向上のための一助となるように「気配り」についての図書を紹介させていただきます。

- ・男は「気くぱり」だ！
- ・さわやかに生きよう！
- ・気配りひとつで明日が広がる！

これは著者が体験された事例をもとに、気配りの心得の良し悪し、気配りの行動の良し悪しなどについて簡明に記述されております。

気配りのできる人は周りの人を和ませ、さわやかな気持ちにさせるものです。

会員諸兄をはじめ、皆様には日常業務の合間のコーヒープレイクにご一読いただければなにかのヒントが得られると存じます。



著者：弘兼憲史

発行所：新講社

ISBN 978-86081-397-0

定価：1,300円（税別）



骨継ぎの知恵袋

～身近にある物を使った、応急処置～



アイデア募集

私たち柔道整復師は部分医療として骨折、脱臼、捻挫、打撲、挫傷、その他軟部組織を含む、骨・関節運動器系の急性・亜急性・反復性外傷に対する、保存的療法を業としております。

その立場から、一般の方々に簡単な応急処置のアドバイスができないでしょうか？

日常生活やスポーツ現場においてはもちろんのこと、震災、交通事故、労働災害などで不慮の負傷に見舞われたとき、一般の方々が身近にある「物」を利用して施すことのできる、骨継ぎならではのアイデア溢れる、応急処置（固定）法を広く公募いたします。

皆様からいただいたアイデアをまとめまして冊子を作成し、生涯学習講習会（10月7

日（日）開催予定）にて、一般の参加者に配布し、緊急時の応急処置に役立てていただきたいと考えています。

特に、過去の震災やこの度の東日本大震災時に「医療救護ボランティア活動」において「これが役立った！」という「物」や一般の方に分かるその使い方などの情報をぜひ、ご教示いただきますようお願いいたします。

アイデアの提出は、下記の住所、FAX、または、E-mailにてお知らせください。

記

公益社団法人日本柔道整復師会 学術部
〒110-0007 東京都台東区上野公園16-9
FAX：03-3822-2475
E-mail:gakujutu@shadan-nissei.or.jp

〈表紙解説〉

一面に広がるそば畑と戸隠連山
長野市「戸隠高原」

写真撮影 井出利久
解説文 松坂佳雄

〈戸隠の手打ちそば〉

戸隠は有名なそばどころ。戸隠の風土と自然条件が適しているため、「霧下そば」と呼ばれる薫り高い風味の美味しいそばができる。そして嫁入り道具の一つとも言われた伝統のそば打ちの技術と冷たい清水が加わって、引き締まった歯ざわりの戸隠ならではの味が作り出される。

そばの収穫は夏と秋の2回。秋に採れたそばを新そばと呼び、10月下旬ころから味わうことができる。

また近年、JRのCMと相まってパワースポットとしても戸隠は有名である。



国際部報告会、学術・生涯学習講習会開催のお知らせ

公益社団法人日本柔道整復師会「国際部報告会」ならびに「第20回 学術・生涯学習講習会」を下記の日程で開催いたします。

多数のご応募いただき定員に達しました。ありがとうございました。

日 時：平成24年10月7日(日) 正午開場
会 場：日本柔整会館 〒110-0007 東京都台東区上野公園16-9

■公開講座プログラム (プログラム内容は変更する可能性があります)

- ・ 12:30 国際部報告会 公益社団法人日本柔道整復師会 国際部
演題／日本伝統治療(柔道整復術)普及国際活動
～モンゴルの大草原を駆ける柔道整復師～
- ・ 13:30 特別講演 講師／久野信彦先生 公益社団法人愛知県柔道整復師会
(次ページ参照)
演題／100歳まで歩ける！クノンボールエクササイズ
- ・ 15:00 全国ボランティア活動報告 公益社団法人大阪府柔道整復師会
- ・ 15:30 富山大学寄附講座報告会 講師／西条寿夫 富山大学大学院教授

■申込に関するお問い合わせ

公益社団法人日本柔道整復師会事務局 TEL 03-3821-3511・FAX 03-3822-2475
主催：公益社団法人日本柔道整復師会
後援：産経新聞社、(株)キョーリン製薬ホールディングス

平成24年度公益社団法人日本柔道整復師会主催学術大会一覧

○印の学術大会は、日整会員は、どなたでも無料でご参加いただけます。

ブロック	担当都道府県	名 称	開催予定日	講師・演題
近 畿	(社)和歌山県柔道整復師会	公益社団法人日本柔道整復師会第37回近畿学術大会 和歌山大会	10月28日(日)	○ 「癌抑制遺伝子 RB を用いた新しい癌の予防法、診断法、及び治療法の開発」 京都府立医科大学教授 酒井 敏行 先生
東 海	(社)岐阜県柔道整復師会	公益社団法人日本柔道整復師会第47回東海学術大会 主管：岐阜県第94回中部接骨学会	11月4日(日)	○ 「食生活とがんについて」 岐阜大学大学院医学系研究科医学部教授 永田 知里 先生
大 阪	(公社)大阪府柔道整復師会	公益社団法人日本柔道整復師会第6回大阪学術大会	11月18日(日)	○ 「メタボリックシンドロームと糖尿病」 公益社団法人大阪府柔道整復師会附属診療所 (オージェイクリニック) 院長 堺 秀行 先生
関 東	(社)群馬県接骨師会	公益社団法人日本柔道整復師会第35回関東学術大会 群馬大会	平成25年 3月10日(日)	★ 「膝と腰の痛み—その病態と治療—」 医療法人社団善衆会 善衆会病院 理事長・院長 木村 雅史 先生

★関東以外の会員で参加ご希望の方は、平成25年1月15日(火)までに、主管県に所属社団名・氏名をお知らせください。
主管県：社団法人群馬県接骨師会 TEL：027-234-2323 FAX：027-234-2342

クノンボール開発者 久野先生が語る

—10月7日の生涯学習講習会—

～高齢者でも簡単で楽しくできる筋肉トレーニングを～

私が高齢者に向けて筋肉トレーニングを始めた当時、医療界では、高齢者への筋肉トレーニングがタブーとされていました。なぜなら、高齢者の筋肉は、細くて脆いため、負荷をかけると筋繊維が切れてしまい、かえって危険だと考えられていたからです。衣類が多くの糸で編まれているように、筋肉は無数の筋繊維が集まってできています。新しい衣類は、多少引っ張っても切れませんが、古くなった衣類は、ちょっと引っ張っただけで簡単に裂けてしまいます。それと同様に、高齢者の筋肉は、トレーニングに耐えられず、鍛えるどころか筋繊維がプチプチと切れてしまう可能性が高いからです。

しかし、私は、トレーニングの方法さえ間違えなければ、高齢者でも筋肉を強化し、運動能力の向上を計ることは可能だと信じていました。そんな折に、高齢者トレーニングの重要性を確信させてくれたのが、100歳の双子姉妹として有名になった、故・成田きんさんです。100歳を越えて、当院に来院されたときのきんさんは、周りに抱えられ、ひとりで歩くことができませんでした。しかし、その日から私と一緒にトレーニングに励むうちに、院内を杖なしで歩けるまでになったのです。

私は、きんさんとのトレーニングの中で、高齢者のトレーニングにはいくつか大切な要素があるということを知りました。それは、トレーニングが『簡単で、楽しく、実感できる』ものでなくてはならないということ。それを可能にしたのが、“クノンボール”なのです。子どもの頃に遊んだボール遊びのように、楽しみながら筋肉に適度な負荷をかけられるクノンボール運動は、簡単で続けやすく、まさに高齢者のための運動といえるのです。



久野信彦(くのぶひこ)

1945年、愛知県生まれ。名城大学薬学部卒。薬剤師。柔道整復師。久野接骨院院長。故・成田きんさんの運動トレーナーとして注目を集め、現在も高齢者の筋肉トレーニングの指導に力を入れている。著書は、『100歳まで歩ける! クノンボールエクササイズ』(自由国民社)、『老筋力トレーニング&ケアBOOK』(祥伝社)など多数。



クノンボール運動の魅力

ゴムの弾力で筋肉に適度な負荷をかけられる

バランス感覚を刺激し、脳も活性化させる

遊び感覚で楽しくトレーニングを続けられる

健康情報誌「日整はつらつ！」掲載向け 「学術シリーズ」の原稿募集について

日整学術部では、柔道整復師の優れた技術を幅広く国民にも分かりやすく紹介する目的で、健康情報誌「日整はつらつ！」とホームページに「学術シリーズ」を掲載しております。

論文形式にとらわれないで、一般の方々にも分かりやすい内容で、皆様が日々の施療で活用され、「これは効果がある！」と思われる技術などを下記要項に沿ってご応募ください。

記

健康情報誌「日整はつらつ！」「学術シリーズ」の投稿規定

1. 投稿原稿の内容 日々の施療で活用している有効な施療方法で、早期回復の技術や疼痛の緩和方法など、患者様の訴えや日常的な問題をタイトルにさせていただいて結構です。
(日整はつらつ！掲載)
 - ・原稿はA4版で横書き、ワードなどで作成する。
 - ・文字数は2,000～2,500字程度。(日整はつらつ！2ページくらいを限度に)
 - ・スライド(写真)数は5枚以内(ホームページ掲載)
 - ・原稿はA4版で横書き、ワードなどで作成する。
 - ・文字数・スライド(写真)数は制限しません。
2. 投稿資格 公益社団法人日本柔道整復師会会員に限る。
3. 投稿原稿の採択 公益社団法人日本柔道整復師会学術部において決定する。
4. 受付 第13回選考平成24年9月末日締め切り・第14回選考平成24年11月末日締め切り
第15回選考平成25年1月末日締め切り・第16回選考平成25年3月末日締め切り
5. 送付方法 メールまたは原稿とデータを郵送
6. 送付先 〒110-0007 東京都台東区上野公園16番9号
公益社団法人 日本柔道整復師会 学術部宛
電話 03-3821-3511 FAX 03-3822-2475
PC Mail Address: gakujutu@shadan-nissei.or.jp
7. 著作権 “日整はつらつ！”に掲載された著作物の著作権は公益社団法人日本柔道整復師会に帰属する。
8. その他 ご不明な点は日整学術部までお問い合わせください。

日整文芸

(作品は1人3首〈句〉までといたします)

〔短歌〕

回想

山梨県 明風 散人

七月六日甲府空襲ありし夜は
われ当直の若き兵たり

戦時より早や半世紀過ぎゆけり
青春われは海兵たりき

ミッドウエー 嗚呼・運命の五分間
幾多空母の海に消えたり

〔雨季〕

奈良県 長谷川浩行

雨傘をさして歩けば雨音の
重たき傘と心に思う

寺庭の辺り一面紫の
見事に咲いた紫陽花の様

水面に写し出される青き富士
我ふるさとの誇れる景色

東京 伊藤 正信

血は水より濃しと言われているけれど
そうも思へぬこともしばしば

待合室の患者同志の雑談を
聞くとはなしにきいてしまぬ

梅干しを漬ける作業に没頭し
来院するを忘れしと言ふ

〔俳句〕

夏草

群馬県 鈴木 乗風

平泉二句

高館たかだちに人なき坂や鱗雲

夏草や川ゆるやかに暁あけの雲

白地着てほのかに義父の匂ひかな

福井県 田上 滋良

〔松 蟬〕

松蟬や昼寝の刻はとうに過ぐ

紫陽花のような生き方それもよし

しわくちやの手に丸めらる豆御飯

〔川 柳〕

北海道 阿部 篤夫

富良野路は今が盛りのラベンダー

大雪ろ路道にひっこりシマリスが

大雪や硫黄いおうの煙り美瑛山

石川県 東 勝一

立ち止まり 立ち止まりつつ 前を見る

振り返る 心のゆとりは 金一封

重き状 手にすることへ 足重し

(医療功労者知事表彰を受けて)

「日整文芸欄では一般の方々からの投稿を募集しております」

広報部

日整文芸は、会員の方に加え、一般の方々からも「短歌」「俳句」「川柳」を募集します。一般の方の投稿は、日本柔道整復師会会員を通じて、都道府県名、紹介会員名および連絡先、作品提出者名を明記の上、ご応募してください。

日整文芸を通じて読者の皆様とよい交流の場となればと願っております。

作品は会員と同じく1人3首〈句〉までといたします。多くのご応募をお待ちしております。

宛 先 〒110-0007 東京都台東区上野公園16番9号
公益社団法人 日本柔道整復師会広報部
TEL : 03-3821-3511 FAX : 03-3822-2475
E-mail : kouhou@shadan-nissei.or.jp

編集後記

■少年柔道教室の指導員として、中学校武道必修化の安全性に対する反響はあまりにも厳しかった。そこで、ロンドンオリンピック柔道競技の活躍に期待する気持は私だけではなかったはずだ。

ところが、耳に入る言葉は「柔道らしくない。面白くない。勝てない」何一つ、低迷する日本柔道を好転させるものはなかった。というよりも青少年の夢をはぎ取ってしまったようにも思える。日整全国柔道大会を目前にひかえ、会員大会では正々堂々と組み合い、怪我をしない怪我をさせない柔道を。少年大会では限らない可能性を秘めた活力ある試合に期待し、その素晴らしさを広く伝えようと楽しみにしている。

(多毛家)

■福島県の高校3年生から、柔道整復師になりたいので私の接骨院で職場体験をしたいと依頼があり、夏休みを利用して体験していった。

なぜ、柔道整復師を目指そうと思ったのかと尋ねると、東日本大震災のときに、避難所で日整の柔道整復師が救護ボランティア活動をしているのを見て感動し、この職業を通して世の中の人々の役に立ちたいと思ったからだそう。

今号にも、多数のボランティア活動報告が掲載されているが、全国で国民が求める柔道整復師のボランティア活動が、ますます盛んになっていくとともに、これが良い証しとなることを願う。

(家真舵)

■北信越学術大会長野大会の記念講演の記事で、東京医科歯科大学名誉教授藤田紘一郎先生の演題として「世界の水・長寿の水—知られざる水の効能」— 一体によい水の飲み方—として、一日に必要な水分摂取の確かな目安として、一日に約2.5ℓもの水を放出しているため、毎日2.5ℓの水を補充しなければならない、とある。

また、体内での水の役割として、覚醒・血液の循環並びに新陳代謝の促進・発汗・利尿・排便・鎮静・解毒・入眠など。そしてガブ飲みせず、ちびちびとゆっくりこまめに飲むことが大

切としている。

小生は、アルコールの飲み方だけは得意だが、今回、水の飲み方が勉強でき、特に就寝前の1杯は「宝水」として実践していきたい。

(魅家下)

■今、報道などで話題となっている尖閣諸島・竹島問題を見ていると、日本はもっとしっかりとした態度と行動で示してほしいと思う。

柔道整復業界でも、マスディアから「不正請求」の文字が消えない今日、この両方の問題は、きちんとコミュニケーションさえ取れば何の問題もないような気がします、いかがなものか？といっても、「言うは易く行うは難し」ですが、“そろそろいい加減に目を覚まさない”と言いたいです。また、日本中を朝まで騒がせたロンドンオリンピックにおいては、メダル数38個過去最多の記録を打ち出しました。小生も、この期間は毎日寝不足でした。今大会で、目立ったのが「女子力」。これもマスメディアを騒がせました。我々柔道整復師業界も「良い」お騒がせが増えるよう、皆さんで頑張りましょう。

(和座尾)

■日整が公益社団法人として認定され、登記してから1年が経ちました。日整と連携協定する都道府県の社団法人柔道整復師会がすでに公益社団法人として活動されているところは、北から北海道、青森、岩手、埼玉、山梨、東京、愛知、滋賀、大阪です。また、認定の基準に適合すると答申され、次年度の4月1日に登記を予定しているところは群馬と新潟のようです。

さて、日整広報は、昨年9月号から健康情報誌として別冊の「日整はつらつ！」を発行しています。先般の編集会議で「患者さんにぜひ読んでもらいたいと思われる記事をコピーして待合室に置いていただければ、健康情報誌としての役目を果たすのでは？」との話ができました。

人は誰でも“心身ともに健康で長生きしたい”と望むものです。「日整はつらつ！」が国民の健康維持増進に役立つ情報誌となるよう、今後も精一杯努めてまいります。

(多夢楽)

「日整はつらつ！」VOL. 7 SEP 2012

平成24年9月20日発行

公益社団法人 日本柔道整復師会

〒110-0007 東京都台東区上野公園16-9

電話 (03)3821-3511 (大代表)

発行人 萩原 正

編集者 永田 官久

制作 サン企画

印刷所 株式会社プレシーズ



柔道整復師倫理綱領

国民医療の一端として柔道整復術は、国民大衆に広く受け入れられ、民族医学として伝承してきたところであるが、限らない未来へ連綿として更に継承発展すべく、倫理綱領を定めるものとする。ここに柔道整復師は、その名誉を重んじ、倫理綱領の崇高な理念と、目的達成に全力を傾注することを誓つものである。

- 1、柔道整復師の職務に誇りと責任をもち、仁慈の心を以て人類への奉仕に生涯を費く。
- 2、日本古来の柔道精神を涵養し、国民の規範となるべく人格の陶冶に努める。
- 3、相互に尊敬と協力を努め、分をわきまえ法を守り、業務を遂行する。
- 4、学問を尊重し技術の向上に努めると共に、患者に対して常に真摯な態度と誠意を以て接する。
- 5、業務上知りえた秘密を厳守すると共に、人種、信条、性別、社会的地位などにかかわらず患者の回復に全力を尽す。